時事経済情報 No. 99

２０２３年７月２５日

福井県立大学客員教授
丹羽連絡事務所チーフエコノミスト
中 島 精 也

目次

Ⅰ　米国経済
Ⅱ　欧州経済
Ⅲ　中国経済
Ⅳ　日本経済
Ⅴ　マーケット動向

Ⅰ　米国経済

1. 米GDP1～3月期は在庫投資が足を引っ張る

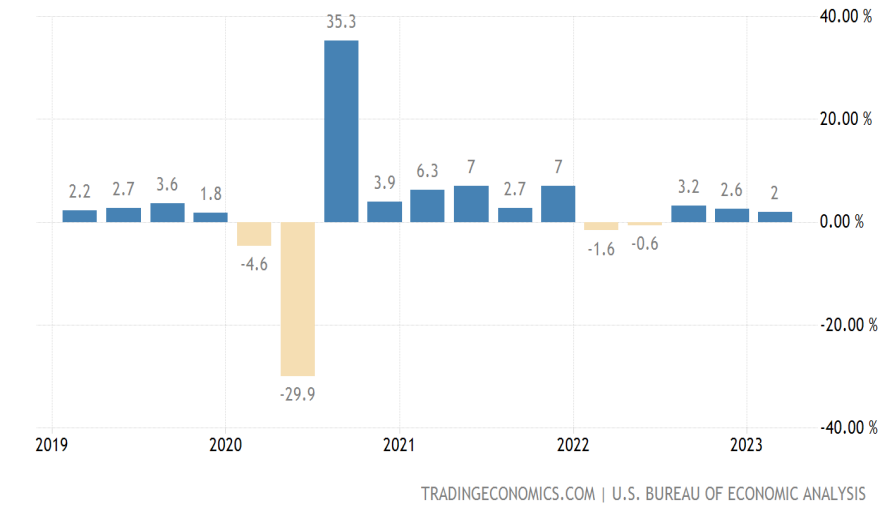
①1～3月期の実質GDP（三次推計） 前期比は+2.0%（前期比年率、右上図）と3四半期連続のプラス。前年比は+1.8%（右下図）

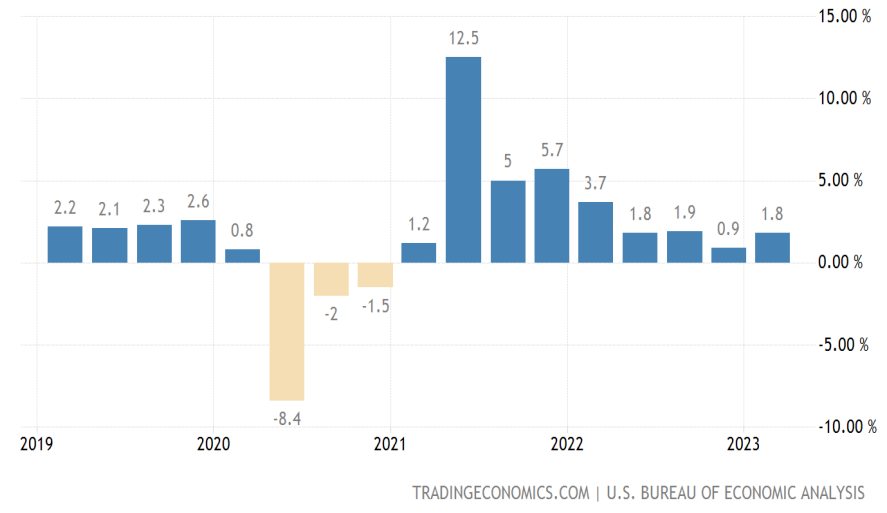
②1～3月期の内需の寄与度は+1.42%、外需の寄与度は+0.58%。内需は消費が寄与度+2.79%と好調だったが、在庫投資の寄与度が▲2.14%と足を引っ張った。

③個人消費の伸びは+4.2%（モノ+6.0%、サービス+3.2%）。設備投資は+0.6%で寄与度は+0.08%。住宅投資の伸びは▲4.0%と8四半期連続のマイナス、政府支出の伸びは+5.0%（連邦+6.0%、地方+4.4%）で寄与度は+0.85%

④輸出の伸びは+7.8%、輸入は+2.0%。

⑤名目GDPの伸びは+6.1%、GDP物価指数は+4.1%。





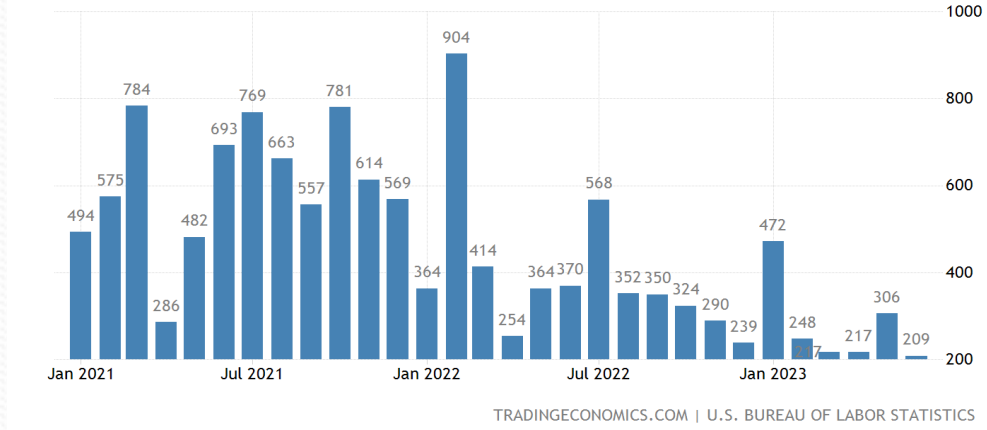
2. 米雇用者数は安定した伸びが続く

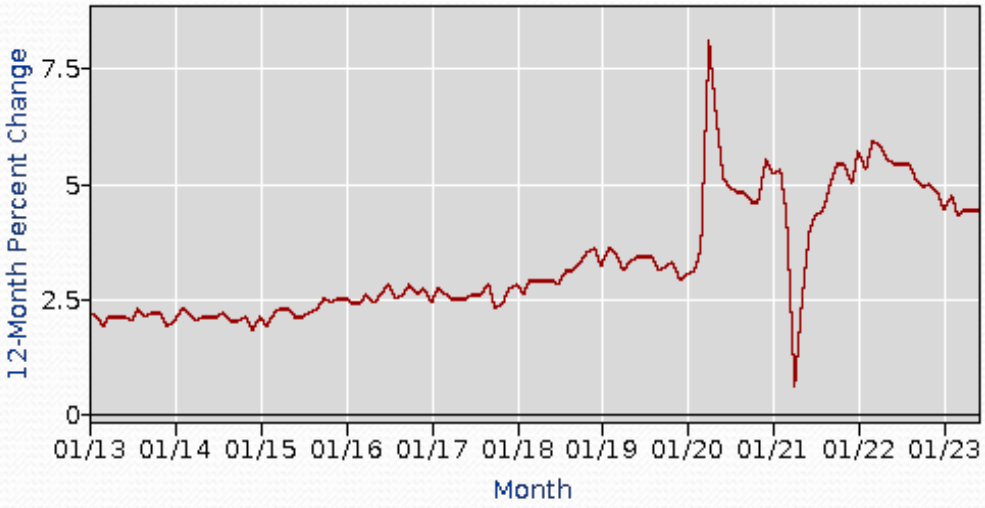
①6月の雇用者数の前月比(右上図)は+20.9万人の増加で事前予想の+22.9万人とほぼ同じ数値。

②雇用増加は業種別では専門職・政府+6.0万人、ヘルスケア+4.11万人、社会支援+2.41万人、建設+2.3万人。

③失業率は3.6%と前月比▲0.1ポイントの低下。労働参加率は62.6%と前月と変わらず。

④時間当たり賃金は前月比+12セント上昇して33.58ドル、前年比(右下図)は+4.4%と前月と変わらず。

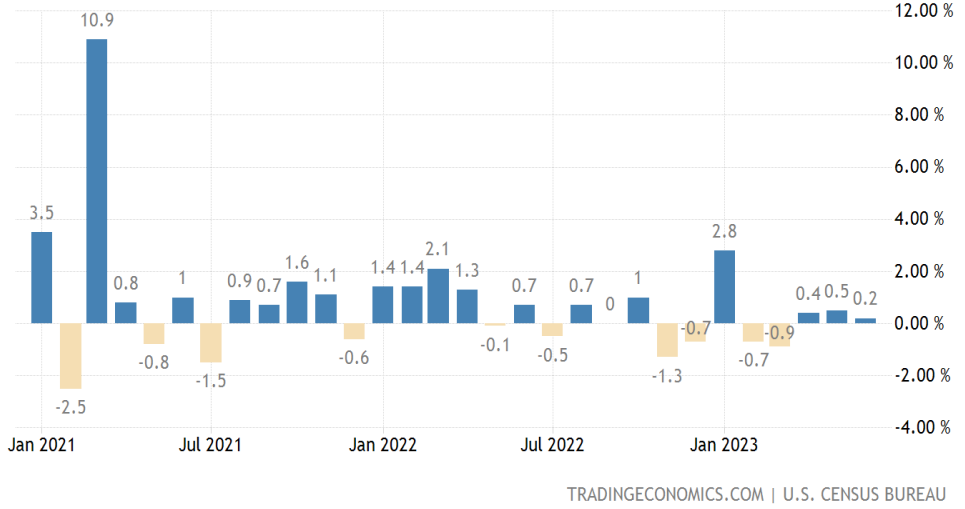


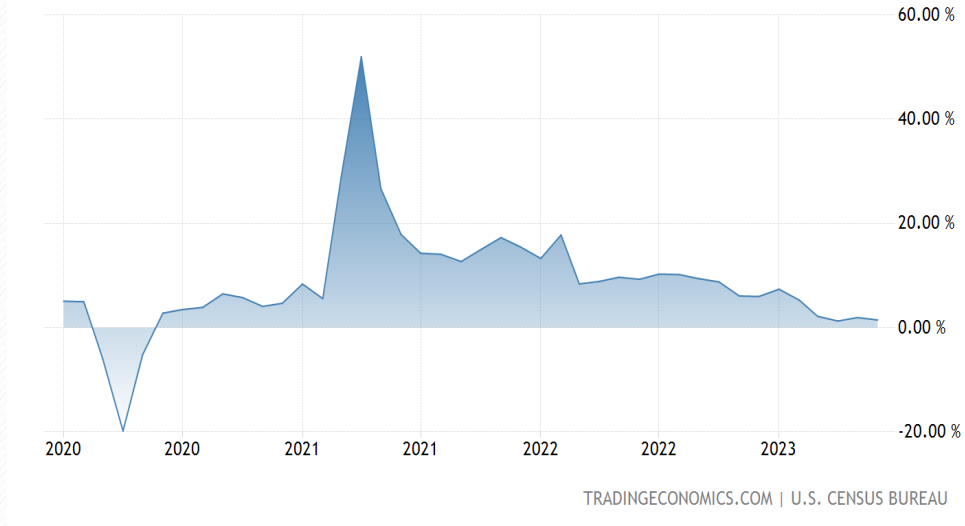


3. 米小売売上高はガソリンが足を引っ張る

①6月の小売売上高の前月比(右上図)+0.2%、前年比(右下図)は+1.5%と弱いが、ガソリンを除くと+4.2%。

②業種	前月比	前年比
自動車	+0.3%、	+5.3%
家具	+1.4%、	▲4.6%
電気製品	+1.1%、	+0.9%
建設資材園芸用品	▲1.2%、	▲3.2%
食料品店	▲0.7%、	+1.3%
健康ケア	▲0.1%、	+6.3%
ガソリンスタンド	▲1.4%、	▲22.7%
衣服アクセサリー	+0.6%、	+0.7%
スポーツ用品・趣味・書籍・音楽	▲1.0%、	▲1.3%
総合スーパー	▲0.1%	+0.5%
無店舗販売	+1.9%、	+9.4%
飲食業	+0.1%、	+8.4%
合計	+0.2%、	+1.5%

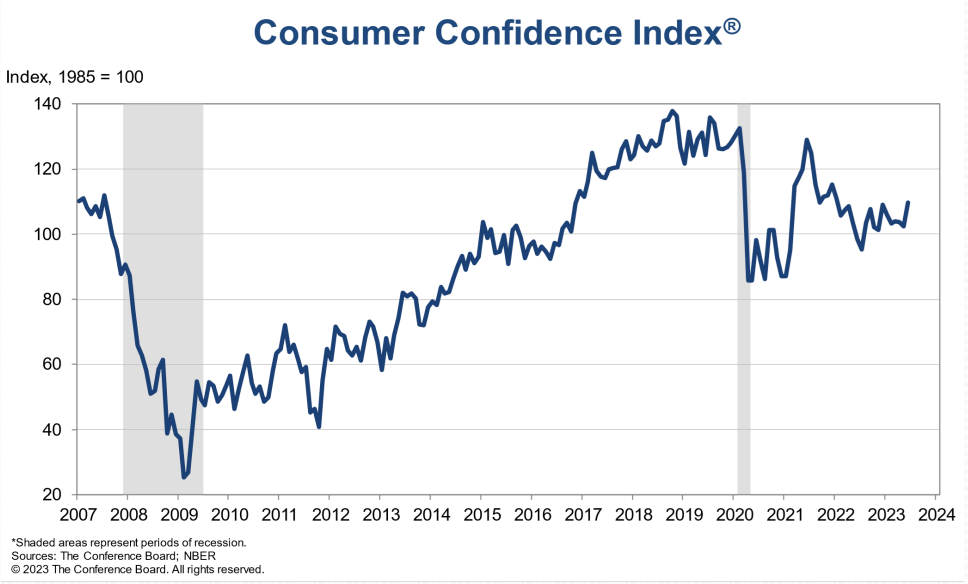




4. 米消費者信頼感指数はインフレ減速を好感

①7月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報、右上図)は、72.6で前月比+8.2ポイントの大幅上昇。現状指数は69.0から77.5に上昇、期待指数は61.5から69.4に上昇。インフレ鈍化、労働市場の安定を好感しての動き。

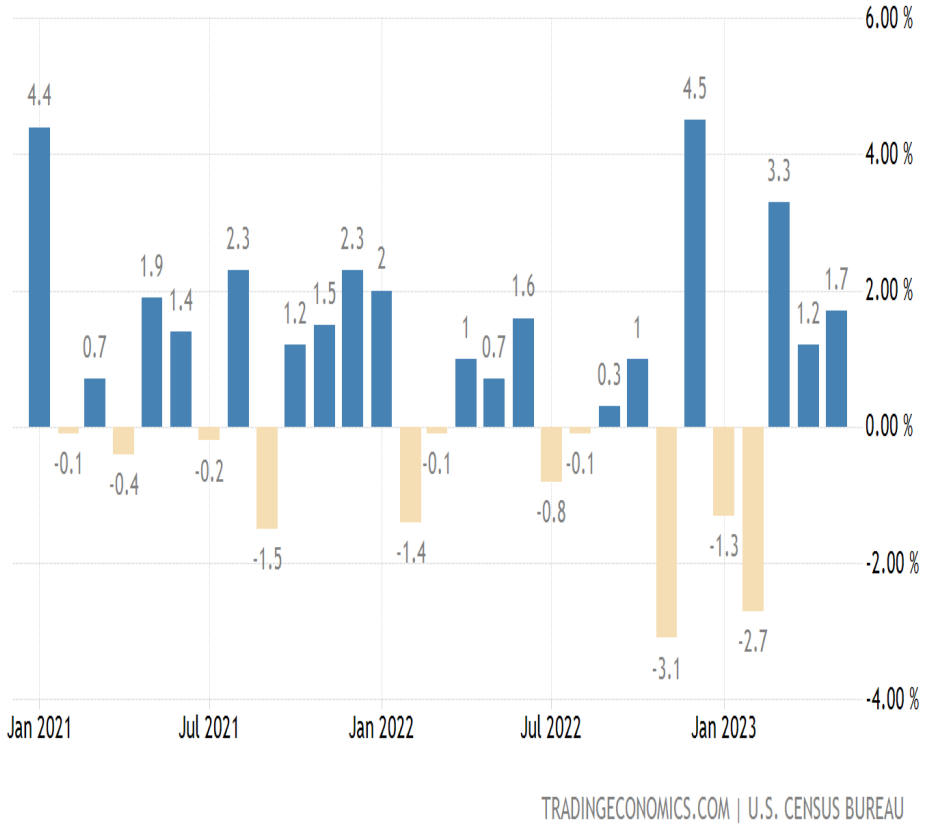
②6月コンファレンスボード消費者信頼感指数(右下図)は109.7で前月比+7.2ポイントの上昇。現状指数は5月148.9→6月155.3に上昇。期待指数は5月71.5→6月79.3に上昇して、1年以内の景気後退到来を示唆する80以下から脱する可能性も見えてきた。



5. 米耐久財新規受注は緩やかな伸びが続く

①5月の耐久財新規受注（速報）は前月比（右図）+1.7%、前年比は+7.3%。輸送機器を除く耐久財新規受注は前月比+0.6%、前年比+1.1%、国防を除く耐久財新規受注は前月比+3.0%、前年比+6.5%

②民間設備投資の先行指標となる非国防資本財から航空機を除いたコア資本財受注は前月比+0.7%、前年比+2.8%。

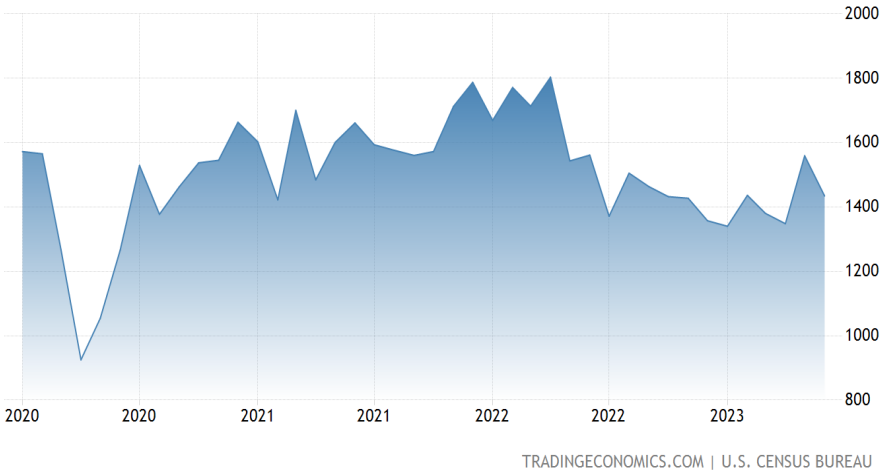


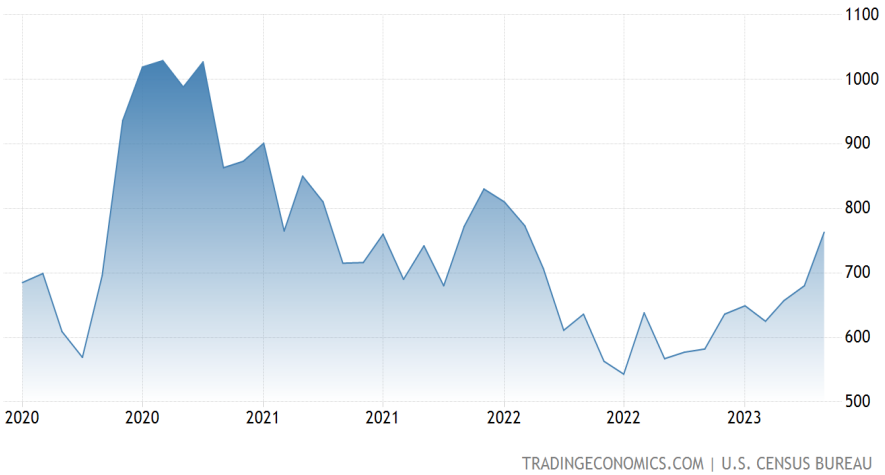
6. 米住宅市場は底入れの様相

①6月の米住宅着工戸数は年率143.4万戸(右上図)、前月比は▲8.0%、前年比は▲8.1%。一戸建は前月比▲7.0%、前年比は▲7.4%、集合住宅(5件以上)は前月比▲11.6%、前年比▲11.2%。地域別前月比、前年比北東部▲2.1%、▲25.2%、中西部▲33.1%、▲21.0%、南部▲4.4%、▲3.2%、西部▲1.2%、▲6.6%。

②4月のケースシラー住宅価格指数(20都市)は前月比+1.7%、前年比▲1.7%。

③5月の新築住宅販売戸数は年率76.3万戸(右下図)、前月比+12.2%、前年比+20.0%と回復傾向続く。地域別前月比、前年比は北東部+17.6%、+110.5%、中西部+4.1%、+40.0%、南部+11.3%、+22.0%、西部+17.4%、▲0.6%。販売在庫比率は6.7ヶ月と前月より▲0.9ヶ月低下。





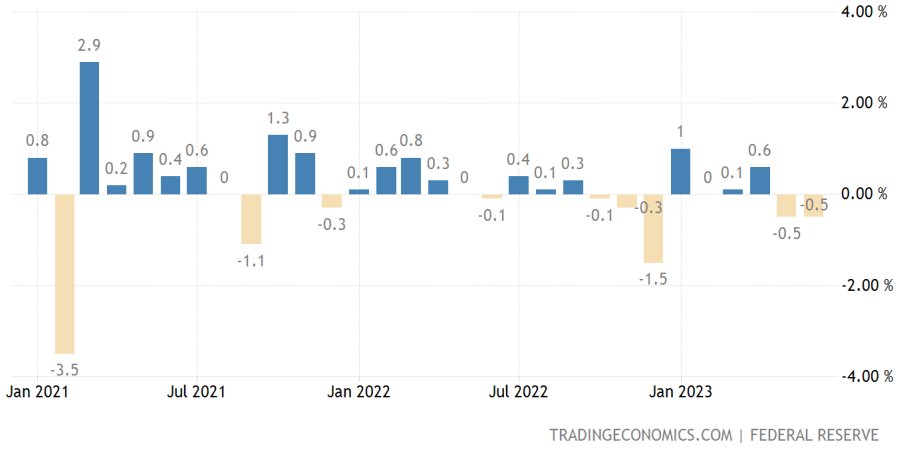
7. 米鉱工業生産は低迷が続く

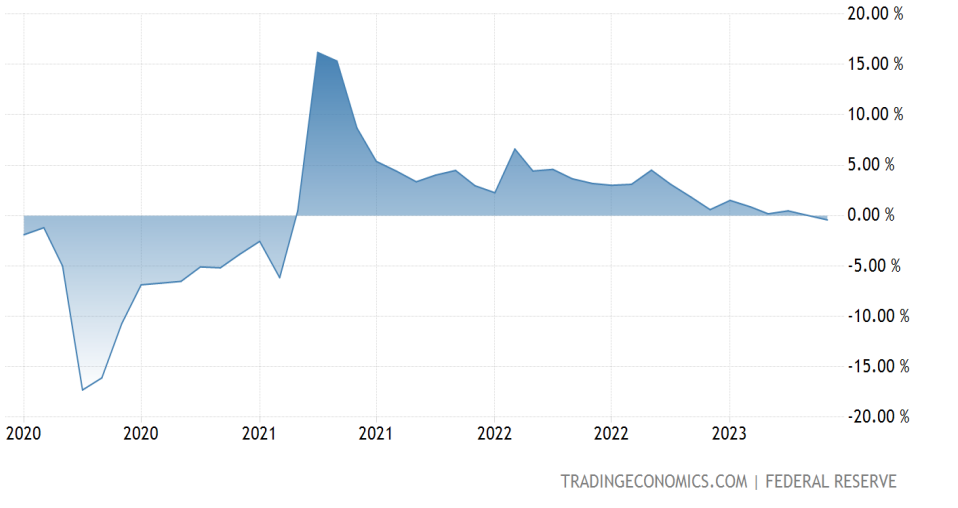
①6月の米鉱工業生産指数は前月比▲0.5%（右上図）。前年比は▲0.4%（右下図）。

②鉱業の前月比は▲0.2%、前年比は+2.8%、公益事業の前月比は▲2.6%、前年比▲6.2%。

③製造業の前月比は▲0.3%、前年比は▲0.3%。うち自動車及び部品はそれぞれ▲3.0%、+9.5%、コンピュータ・電子機器は+1.3%、+0.2%、航空機は+1.6%、+2.5%、金属製品+0.2%、+1.6%、食料・飲料・タバコ▲1.3%、▲2.3%、化学は+0.8%、+1.8%。

④設備稼働率指数（製造業）は78.0と前月より▲0.3ポイント低下。長期平均78.2を▲0.2ポイント下回る。





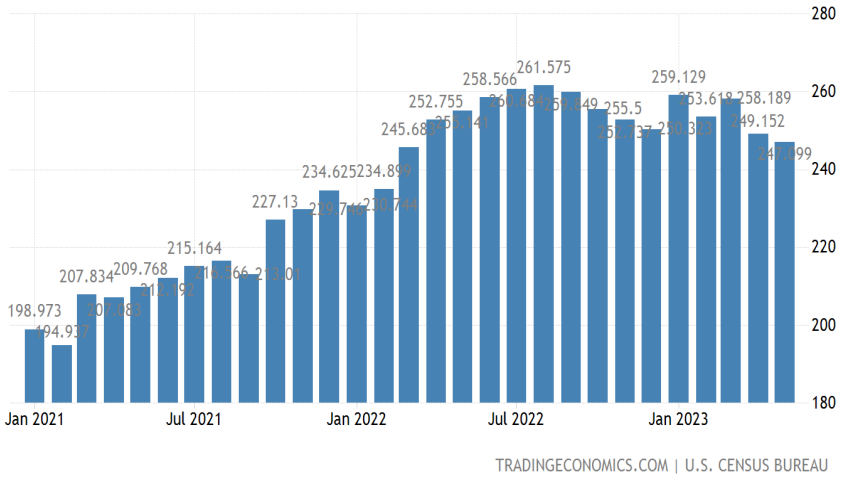
8. 米貿易赤字は輸入減少で縮小傾向

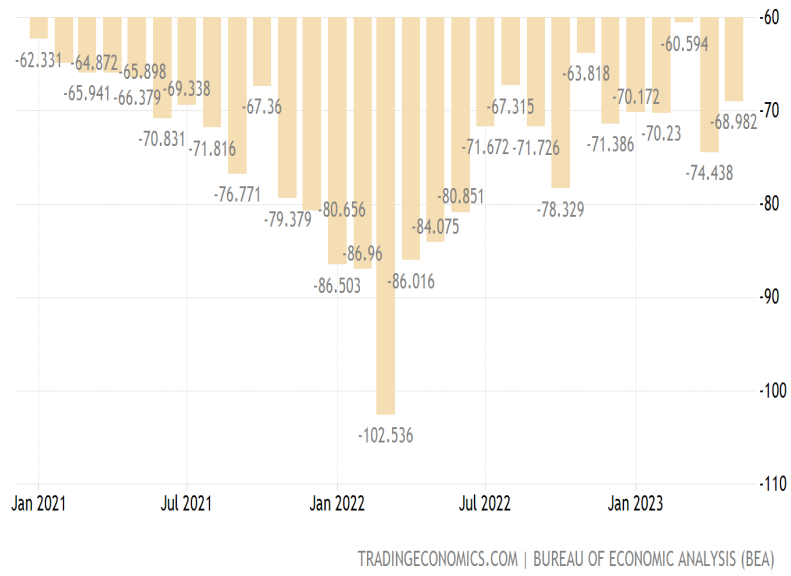
①5月の貿易・サービス収支(季調済、左下図)は前月比+55億ドル改善して▲690億ドルの赤字に縮小。

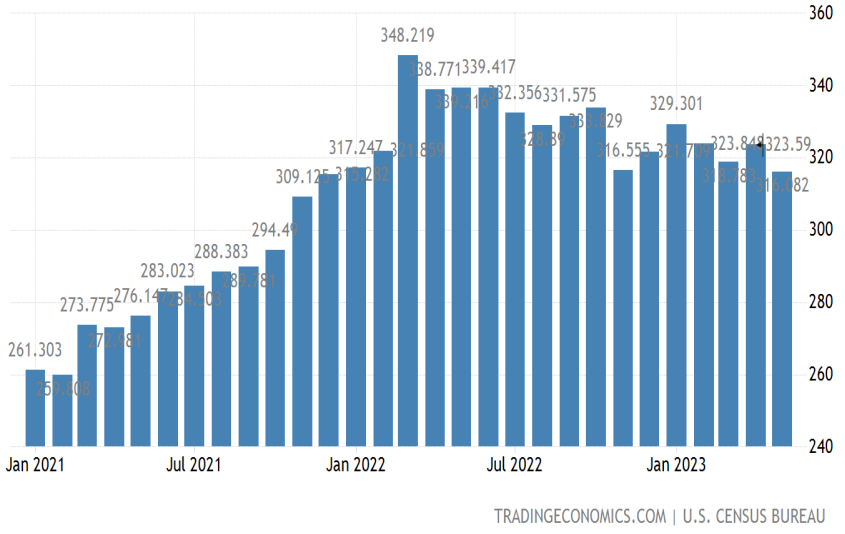
②財・サービス輸出(右上図)は前月比▲21億ドル減少の2,471億ドル(前年比▲3.2%)。前月比で食飲料▲19億ドル、工業用原材料▲15億ドル、自動車・部品+10億ドル

③財・サービス輸入(右下図)は前月比▲75億ドル減少の3,161億ドル(前年比▲6.8%)。前月比で消費財▲48億ドル、工業用原材料▲35億ドル、資本財+8億ドル。

④対中輸出は106.79億ドルで前年比▲13.2%、対中輸入は358.91億ドルで前年比▲18.1%。







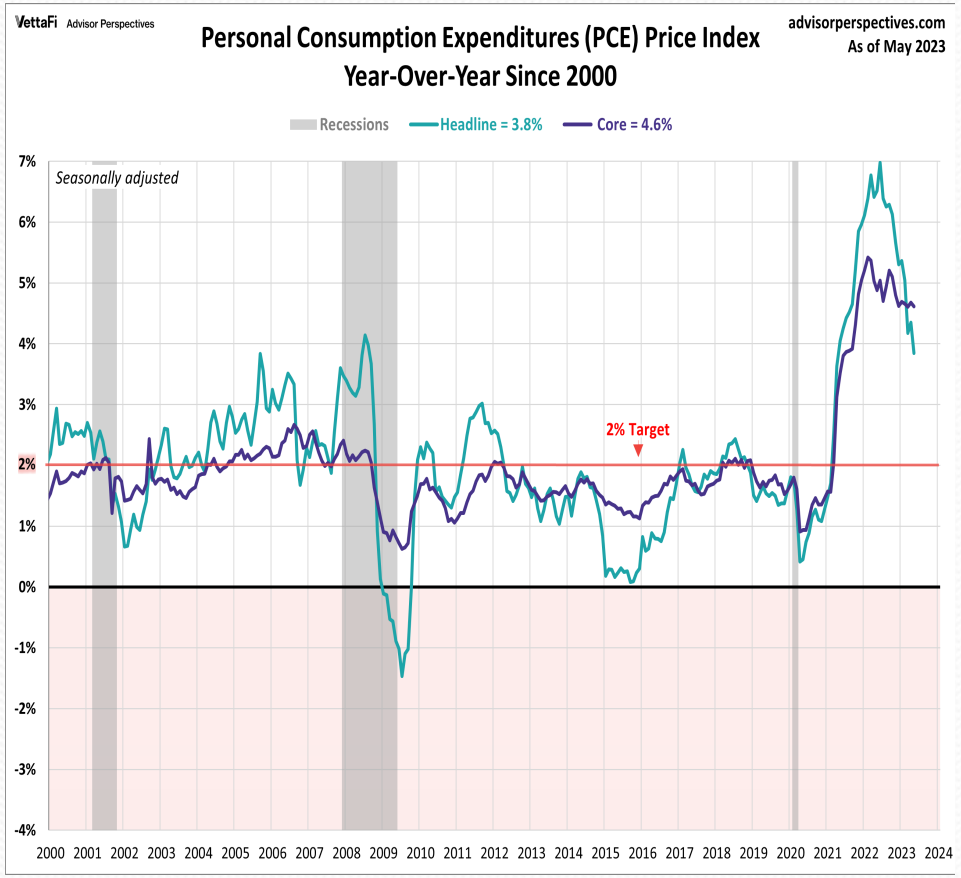
9. 米コアPCEはサービス主導で高止まり

①5月のPCE(個人消費支出)総合物価指数の前年比(右図緑線)は+3.8%と前月より▲0.5ポイント低下。前月比は+0.1%。

②エネルギーと食料を除くコアPCE物価指数の前年比(右図青線)は+4.6%と前月より▲0.1ポイント低下するも、依然としてFedの物価目標2%を大きく上回る。前月比は+0.3%。

③財価格の前年比+1.1%、前月比は▲0.1%、サービス価格の前年比は+5.3%と前月より▲0.2ポイント低下、前月比は+0.3%。エネルギー価格の前年比は▲13.4%、前月比は▲3.9%。

④期待インフレ率指標(BEI)は7月21日時点で10年物2.35%、5年物は2.23%と前月より+0.05～0.1ポイント上昇。5月以降、順イールドに戻す。



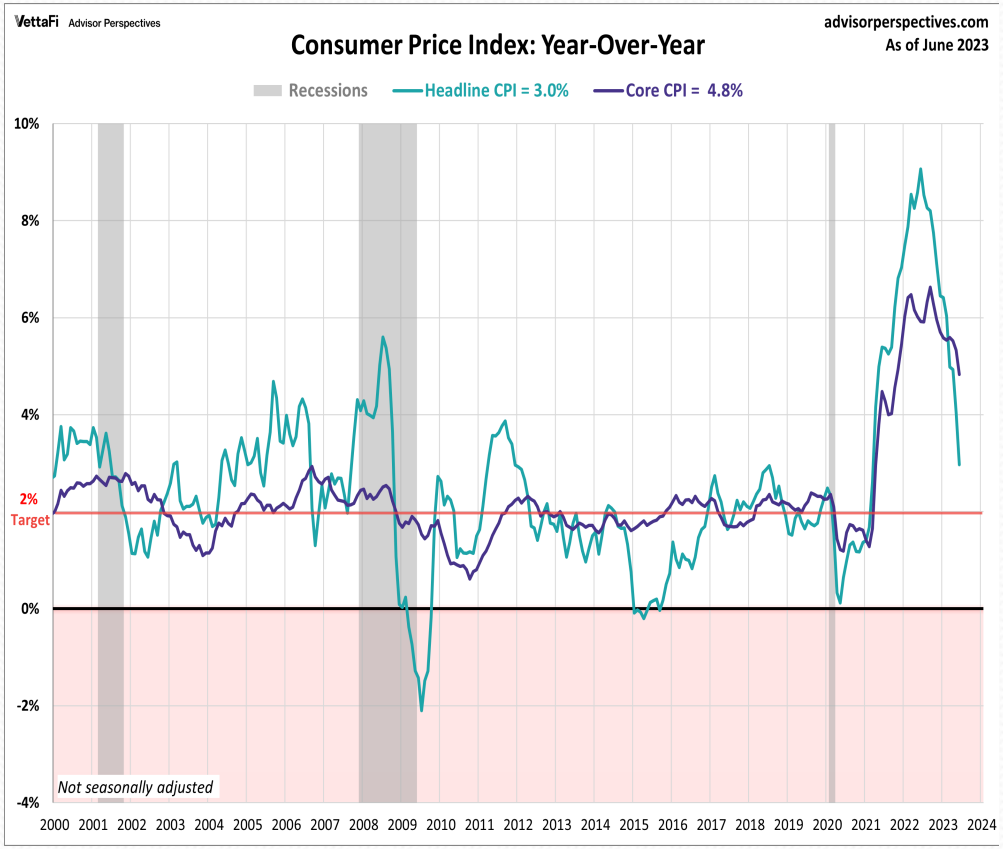
10. 米消費者物価はコア指数が4.8%と依然高い

①6月のCPI(消費者物価指数)総合の前年比(右図緑線)は+3.0%と前月より▲1.0ポイント伸びが低下した。前月比は+0.2%。

②エネルギーの前年比は▲16.7%(うちガソリン▲26.5%、燃料油▲36.6%、電気+5.4%、都市ガス▲18.6%)、前月比は+0.6%(うちガソリンは+1.0%、燃料油は▲0.4%、電気+0.9%、都市ガス▲1.7%)。

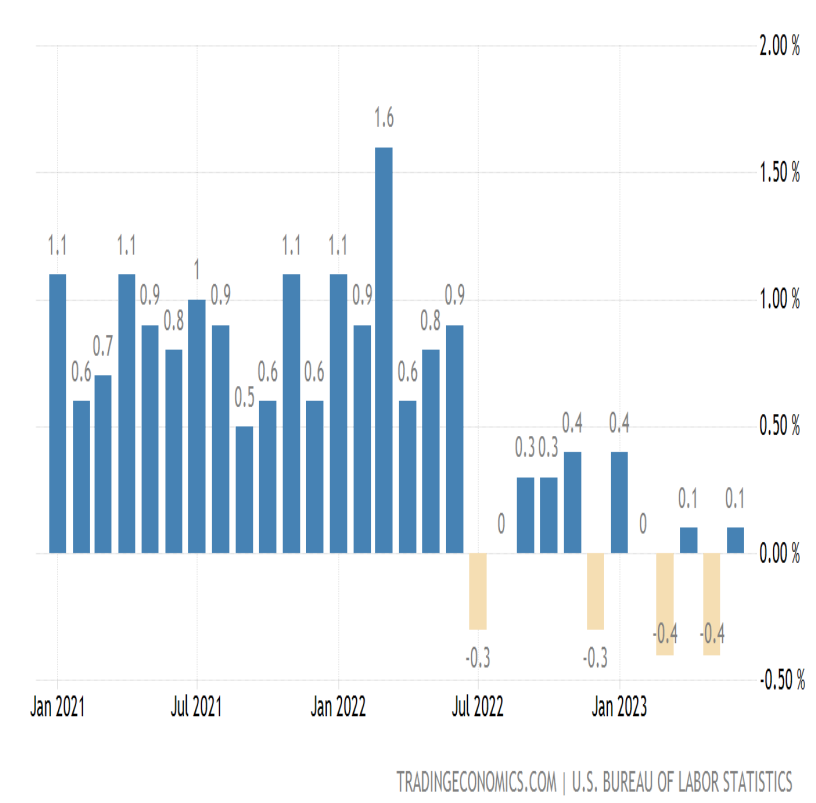
③エネルギーと食料を除くコアCPIの前年比(右図青線)は+4.8%と前月より▲0.5ポイント伸びが低下。前月比は+0.2%と伸びが変わらず。

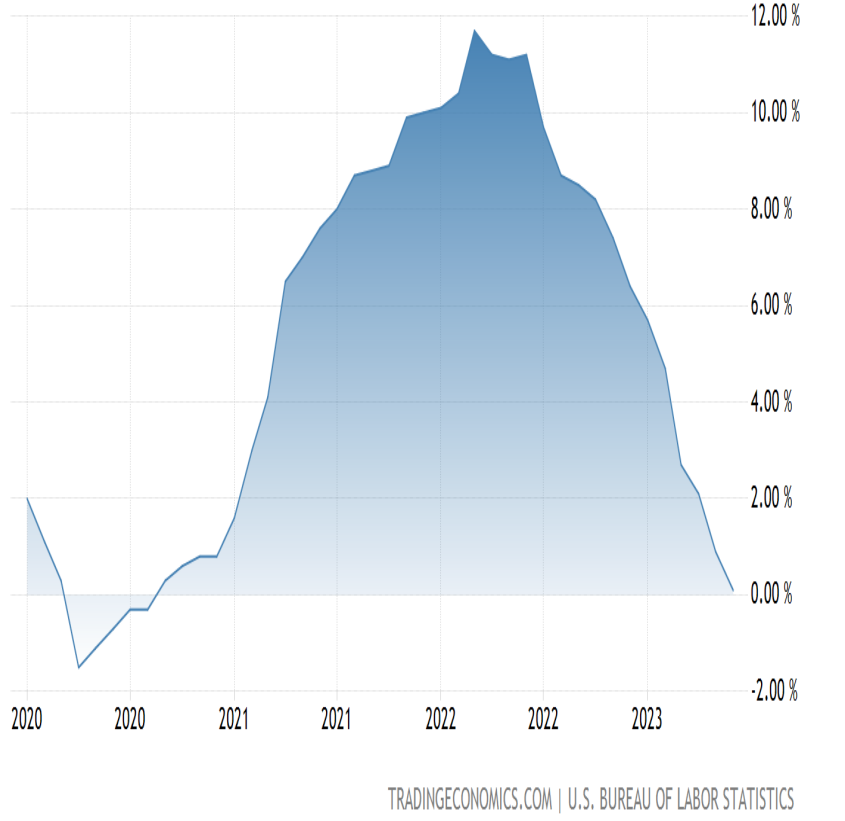
④サービス価格(除くエネルギーサービス)の前年比は+6.2%、前月比は+0.3%とサービ主導のインフレとなっている。



11. 米生産者物価の伸びは前年比ゼロに接近

6月のPPI（生産者物価指数）総合の前月比（左下図）は+0.1%。前年比（右下図）は+0.1%と前月より▲0.8ポイント伸びが低下した。



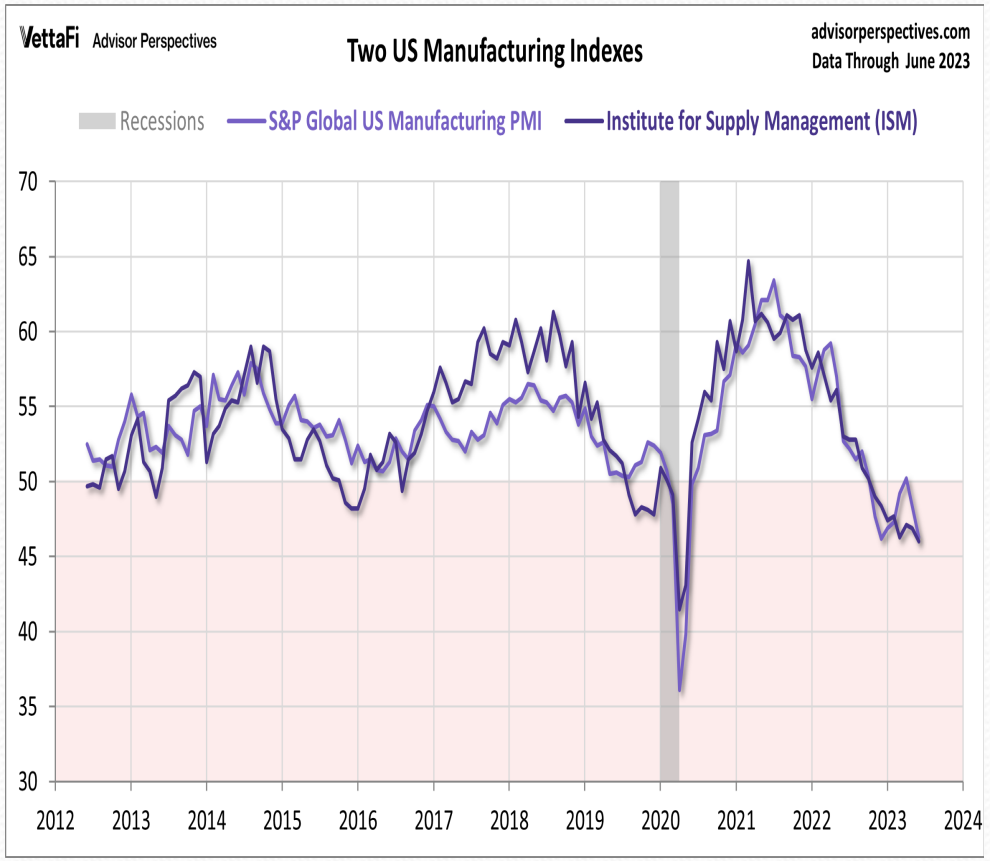


12. 米製造業PMI指数は50以下が続く

①米サプライマネジメント協会(ISM)の6月製造業PMI指数(右図濃青線)は46.0と前月比▲0.9ポイントの低下。項目別前月比では

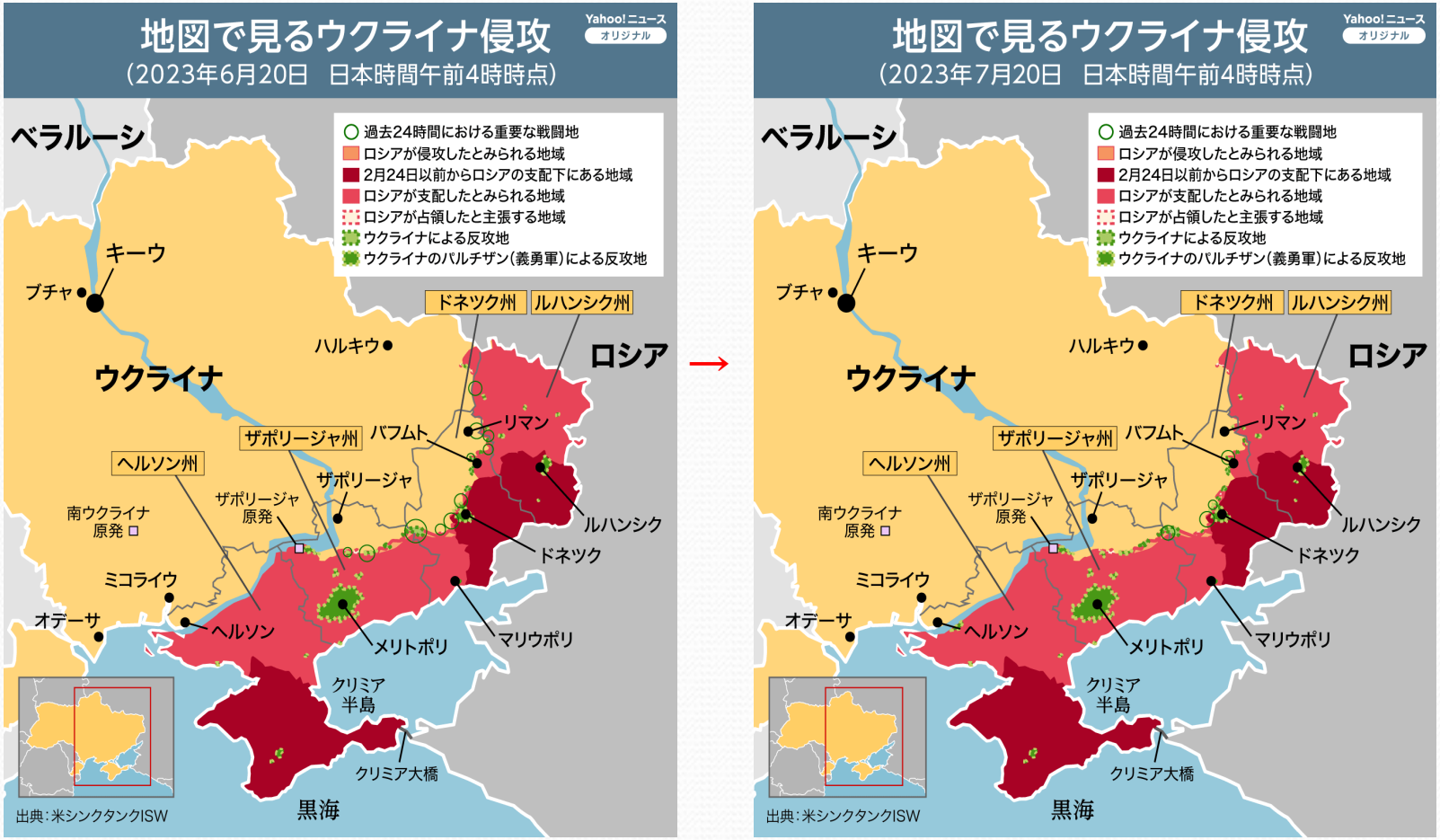
新規受注+3.0ポイント
生産▲4.4
雇用▲3.3
供給者納入+2.2
在庫▲1.8
顧客在庫▲5.2
価格▲2.4
受注残+1.2
新規輸出受注▲2.7
輸入+2.0

②6月S&P製造業PMI指数(右図薄青線)は46.3と前月比▲2.1ポイント低下。



Ⅱ　欧州経済

1. ウクライナ軍の反転攻勢も目立った成果見えず



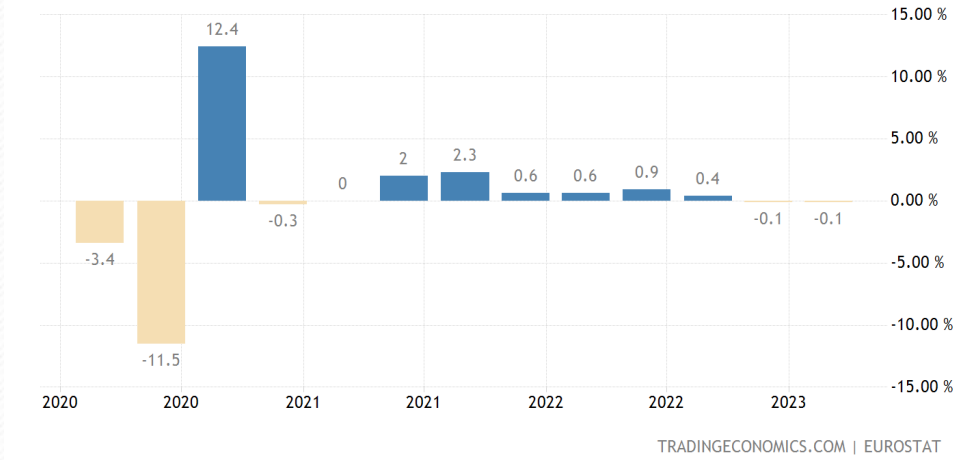
2.1～3月期のユーロ圏のGDPは減速傾向続く

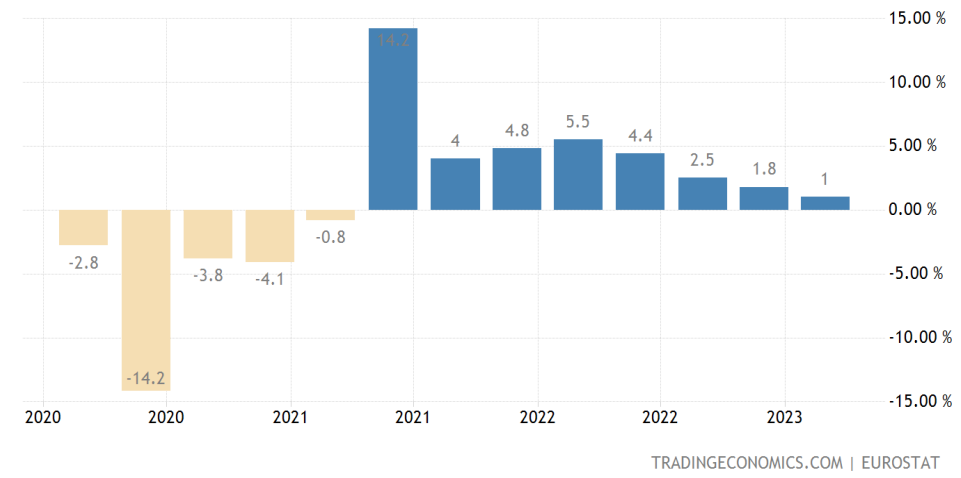
①1～3月期のユーロ圏GDP(確報)は前期比(右上図)▲0.1%と2期連続のマイナス成長で定義によればリセッション。前年比(右下図)は+1.0%。

②前期比で独▲0.3%、仏+0.2%、伊+0.6%、スペイン+0.5%、ポルトガル+1.6%、オーストリア+0.1%、ベルギー+0.5%。

③前年比で独▲0.5%、仏+0.9%、伊+1.9%、スペイン+3.8%、ポルトガル+2.5%、オーストリア+1.8%、ベルギー+1.4%。

④BREXITした英国は前期比+0.1%前年比+0.2%。



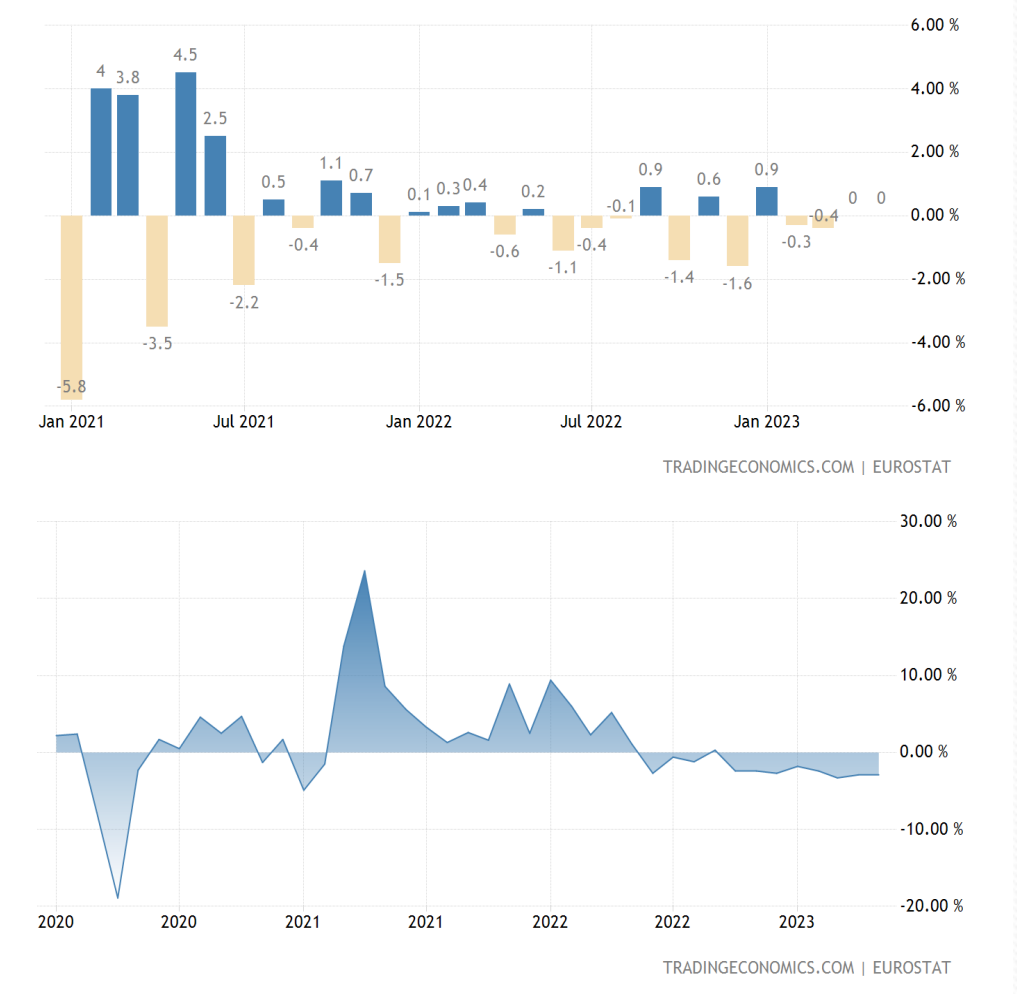


3. ユーロ圏小売売上高(数量)は不振が続く

①5月のユーロ圏小売売上高(数量ベース、季調済)は前月比横ばい続く（右上図)、前年比(右下図)は▲2.9%と不振。インフレによる実質所得の減少と金利上昇が消費を抑制。

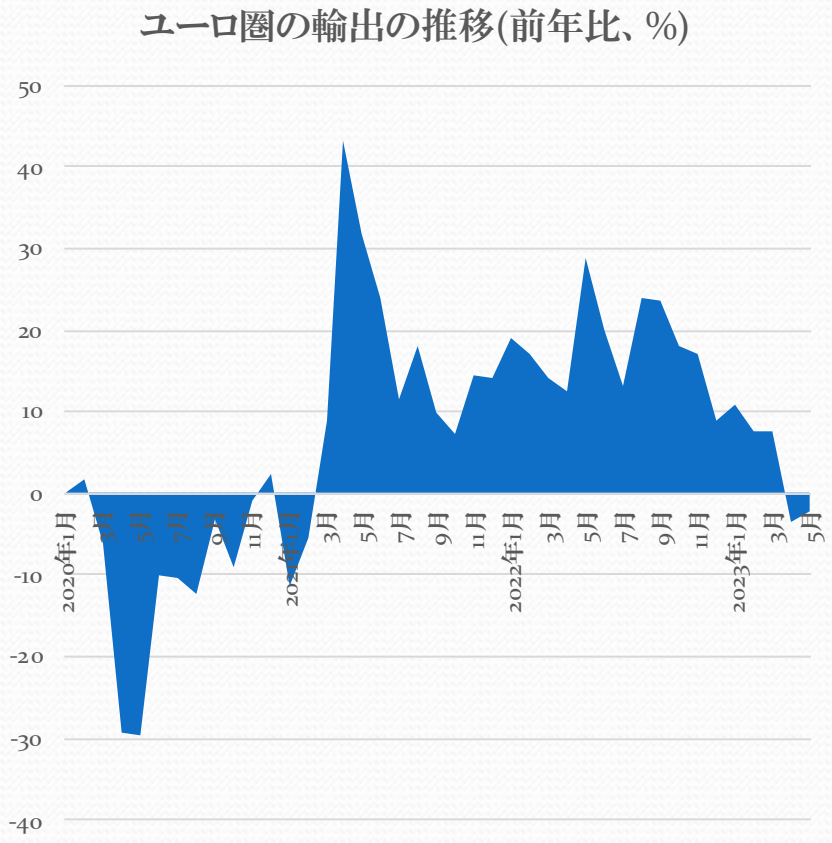
②商品別前月比で食料・飲料・タバコ▲0.5%、非食料製品+0.1%(うち通信販売・インターネット▲0.9%)、自動車燃料▲0.3%。

③商品別前年比では食料・飲料・タバコ▲3.5%、非食料製品▲2.1%（うち通信販売・インターネット▲4.4%)、自動車燃料▲2.2%。

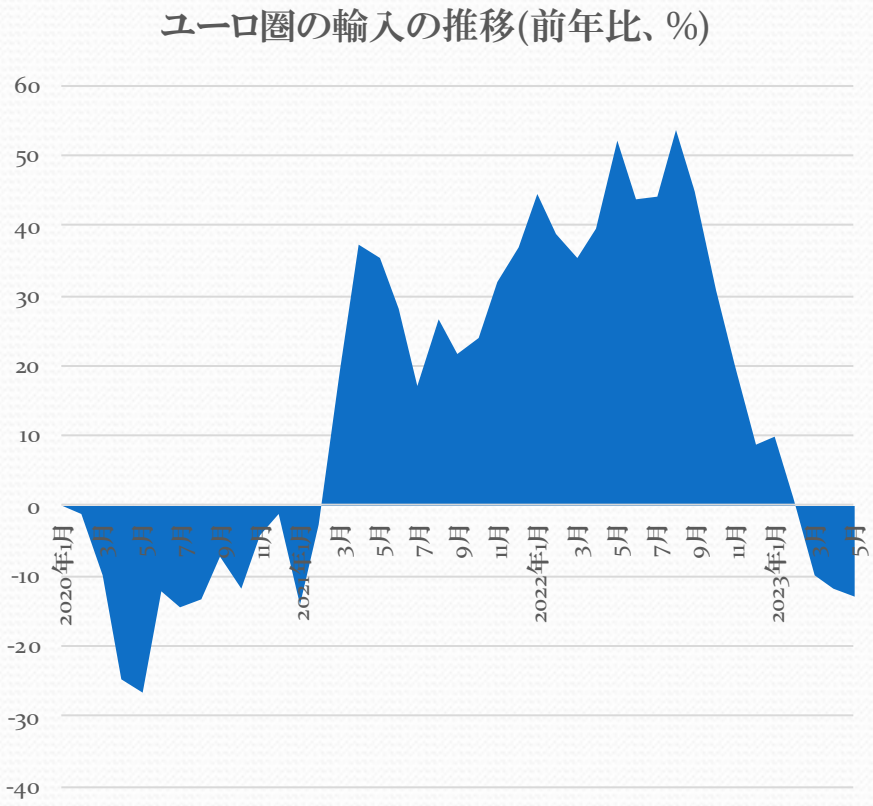


4. ユーロ圏の輸出、輸入共に前年比減少

①5月の輸出の伸びは▲2.3%と2ヶ月連続で前年比マイナス



②5月の輸入の伸びは前年比▲11.9%



5. ユーロ圏鉱工業生産は弱含み続く

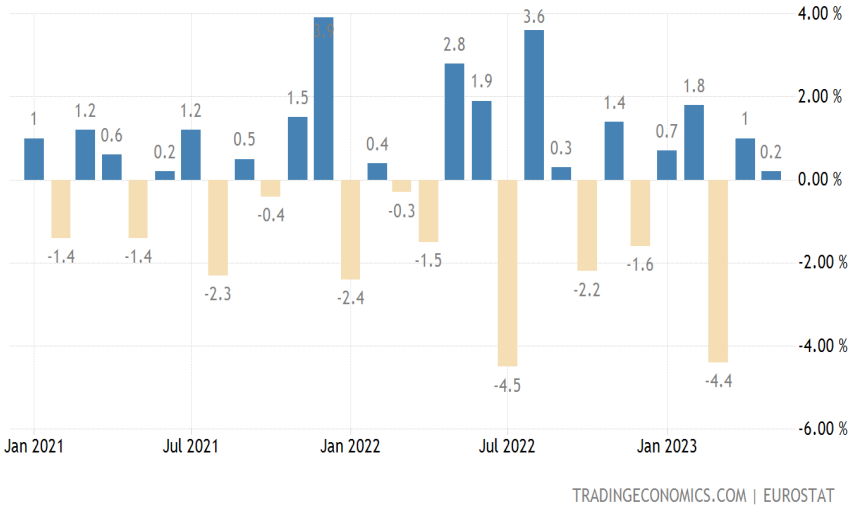
①5月のユーロ圏鉱工業生産は前月比(右上図)+0.2%、前年比(右下図)は▲2.2%。

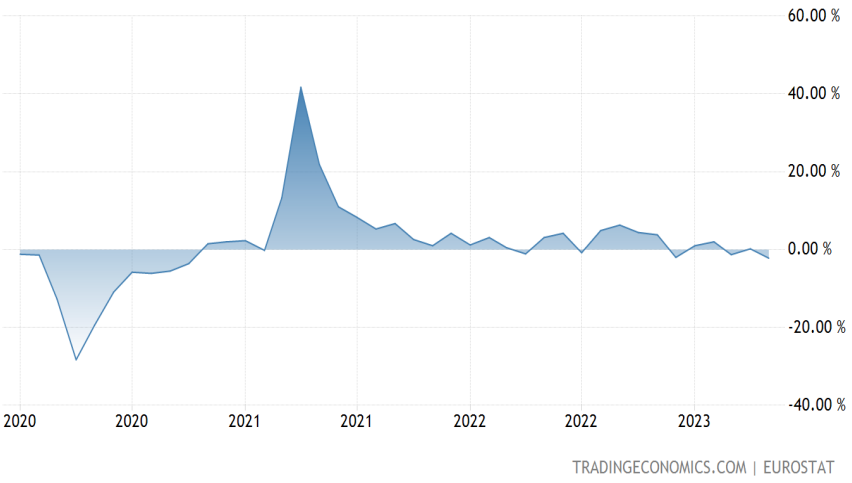
②項目別の前月比は中間財+0.5%、エネルギー▲1.1%、資本財+1.0%、耐久消費財+0.5%、非耐久消費財+0.3%。

③前年比では中間財▲5.4%、エネルギー▲6.2%、資本財+2.5%、耐久消費財▲5.0%、非耐久消費財▲2.8%。

④国別の前月比ではドイツ▲0.2%、仏+1.3%、スペイン+0.7%、ポルトガル+2.0%、オランダ+2.0%、デンマーク▲0.7%、オーストリア+0.7%。アイルランド▲4.9%。

⑤前年比ではドイツ+0.9%、仏+2.9%、スペイン▲0.4%、ポルトガル▲4.3%、オランダ▲8.9%、デンマーク+7.8%、オーストリア▲0.1%、アイルランド▲16.2%。





6. ユーロ圏の失業率は下げ止まりの兆し

①5月のユーロ圏失業率(右図)は6.5%と前月と変わらず、前年同月より▲0.2ポイント低下したが、下げ止まりか。

②最低はチェコの2.4%、最高はスペインの12.7%。

③前年5月との比較では独3.0%→ 2.9%、仏7.5% →7.0%、伊8.1%→ 7.6%、スペイン12.6% → 12.7%、オーストリア4.7% → 4.6%、アイルランド4.2% → 3.8%に低下。一方、オランダ3.3%→3.5%、デンマーク4.1%→4.9%、ポルトガル6.0%→6.4%に上昇。

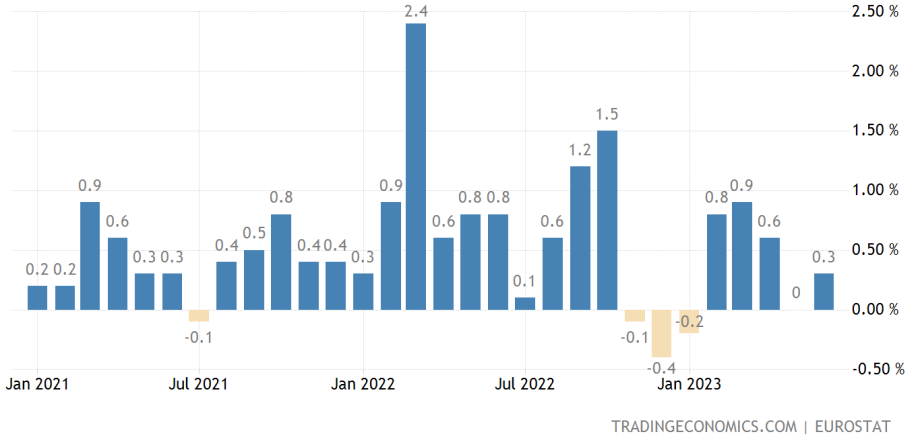
④英国の失業率は4.0%で前月比+0.2ポイント上昇(英国統計局)。2022年8月の3.5%を底に上昇基調。

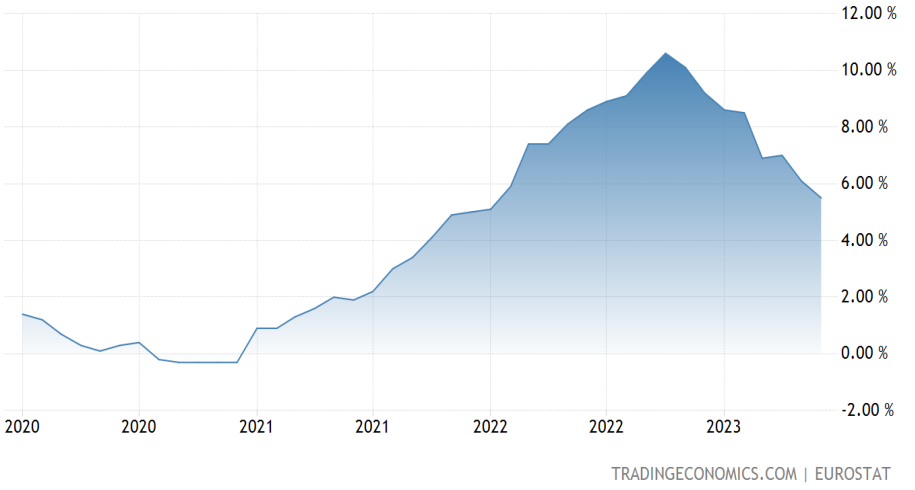
7. ユーロ圏のインフレは非エネルギー製品が主導

①6月のユーロ圏消費者物価(CPI)の前年比(右下図)は前月の伸びから▲0.6ポイント低下し+5.5%、前月比は+0.3%(右上図)

②コアCPI(エネルギー・食料・アルコール・タバコを除く)の前年比は+5.5%と前月より+0.2ポイント伸びが上昇。前月比+0.4%。

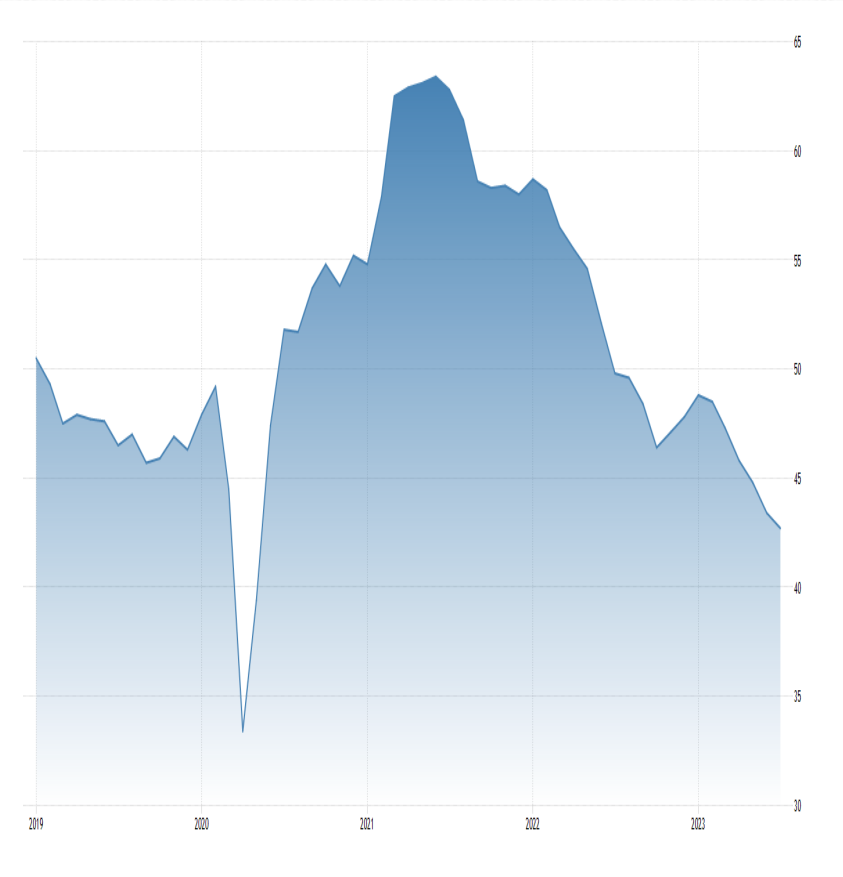
③項目別の前年比で食料・アルコール・タバコは4月+13.5%→5月+12.5%→6月+11.6%。エネルギーは+2.3%→▲1.8% →▲5.6%。非エネルギー工業製品は+6.2%→+5.8%→+5.5%。サービスは+5.2%→+5.0%→+5.4%。



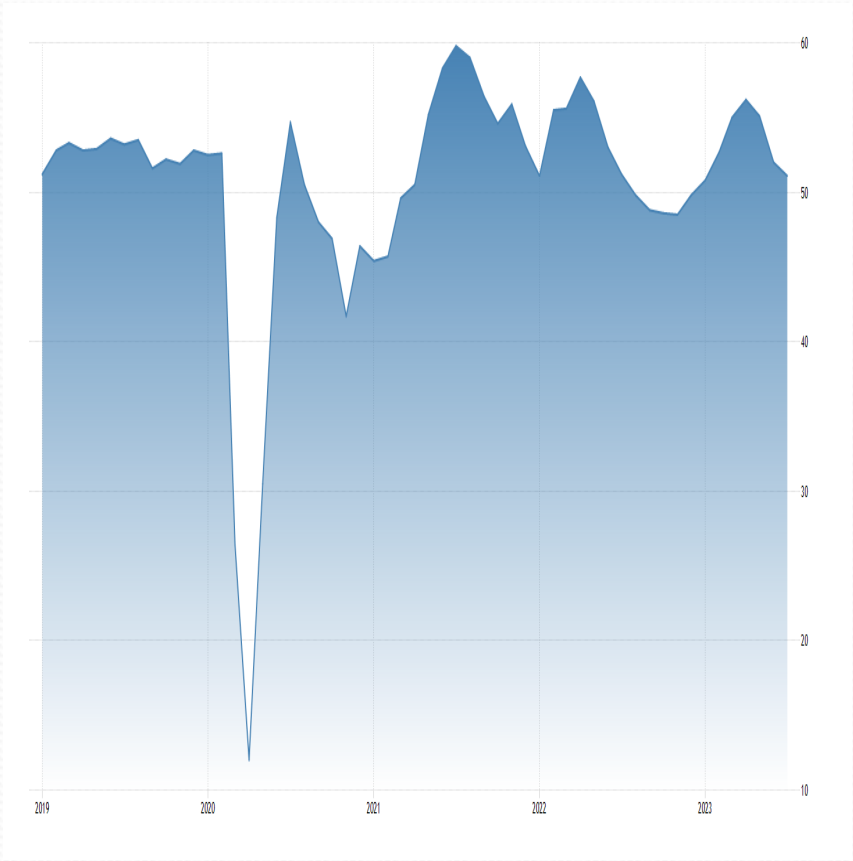


8. ユーロ圏製造業PMIの低下傾向続く

①製造業PMIは6月43.4→7月42.7

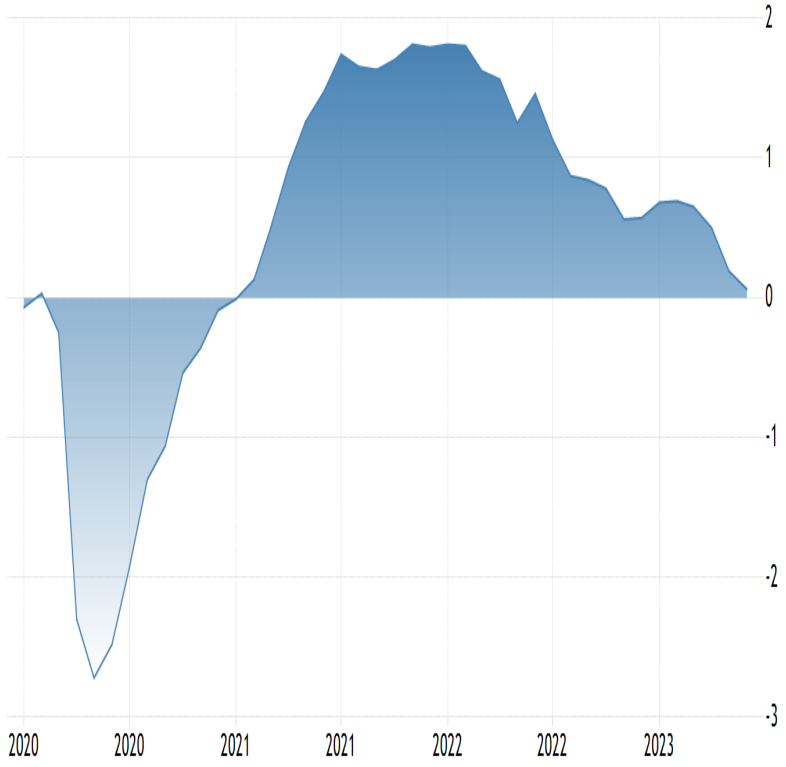


②サービス業PMIは6月52.0→7月51.1

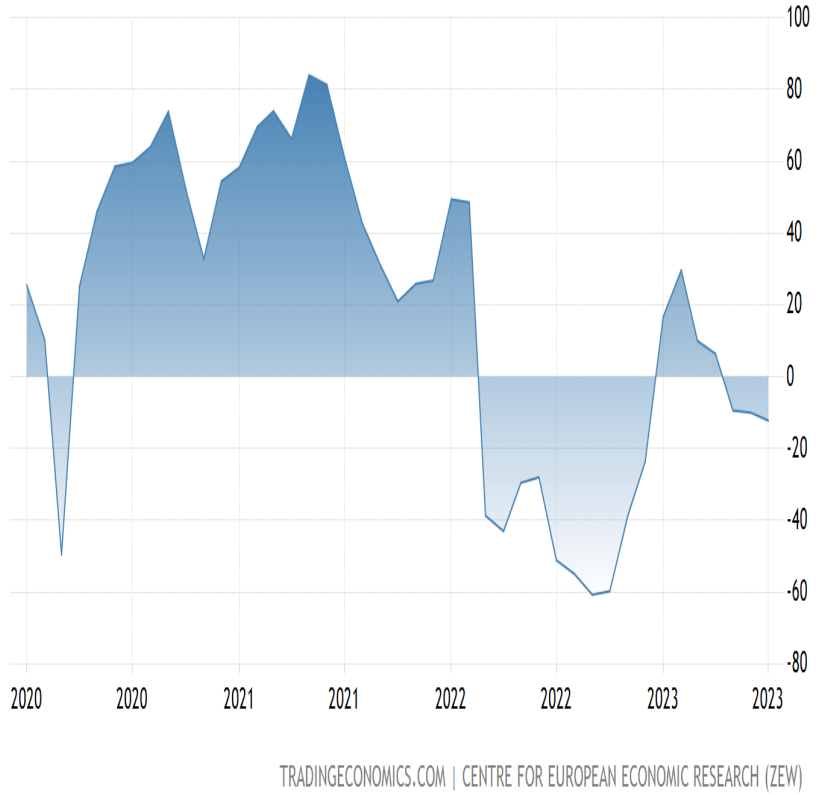


9. ユーロ圏景況感指数は悪化傾向が続く

①6月のユーロ圏業況指数(EU委員会)は+0.06と4ヶ月連続の低下。

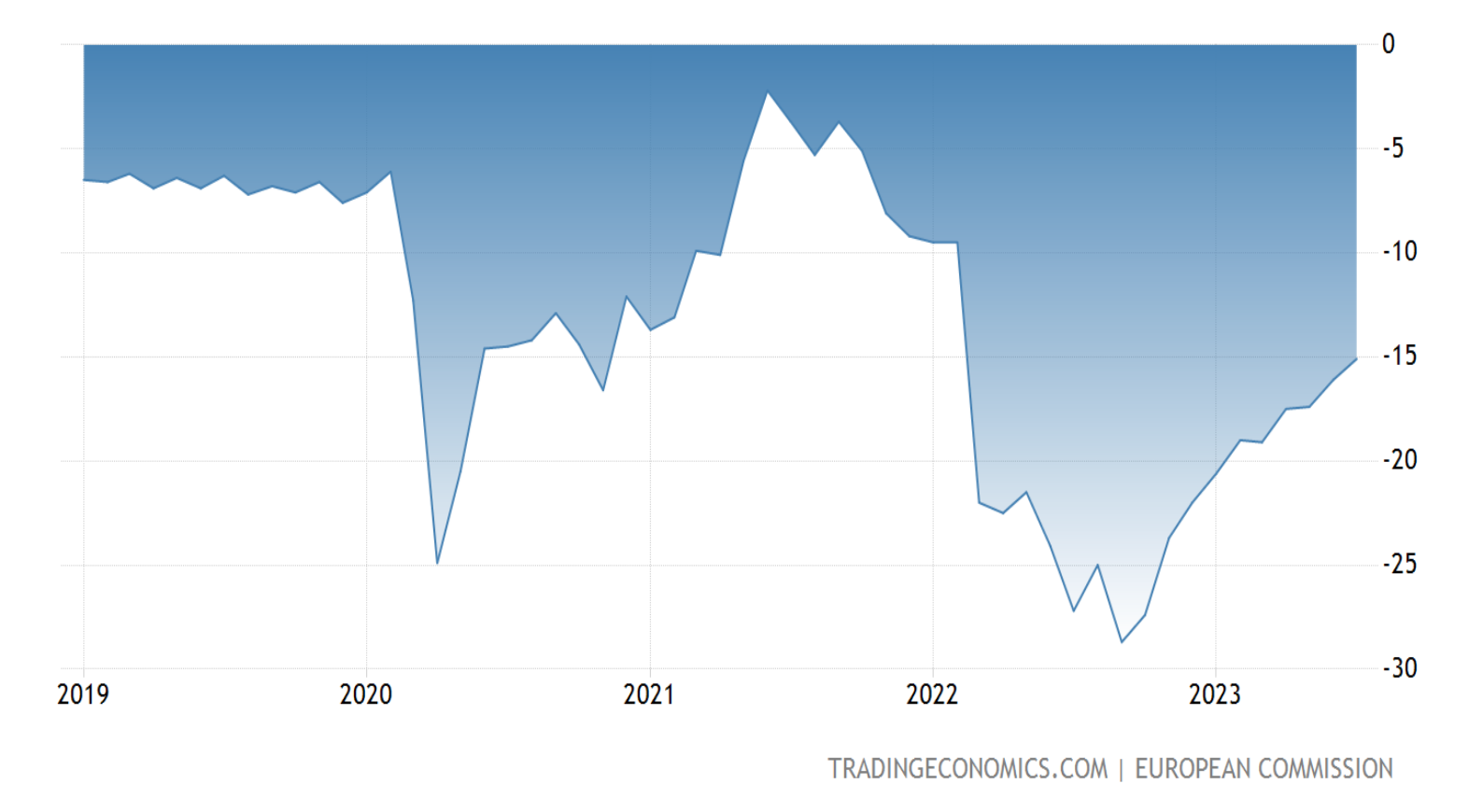


②7月のユーロ圏ZEW景況感指数は先行き不透明感から前月比▲2.2ポイント低下して▲12.2。



10. ユーロ圏消費者信頼感指数は緩やかな回復傾向

欧州委員会が発表した7月のユーロ圏消費者信頼感指数(右図)は前月より+1.0ポイント改善して▲15.1。

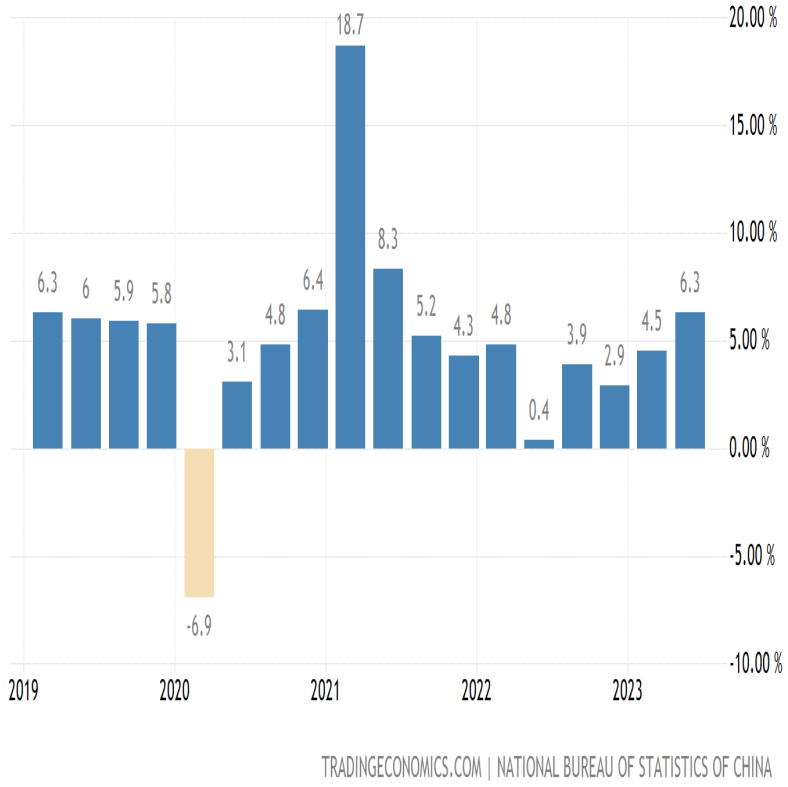


Ⅲ 中国経済

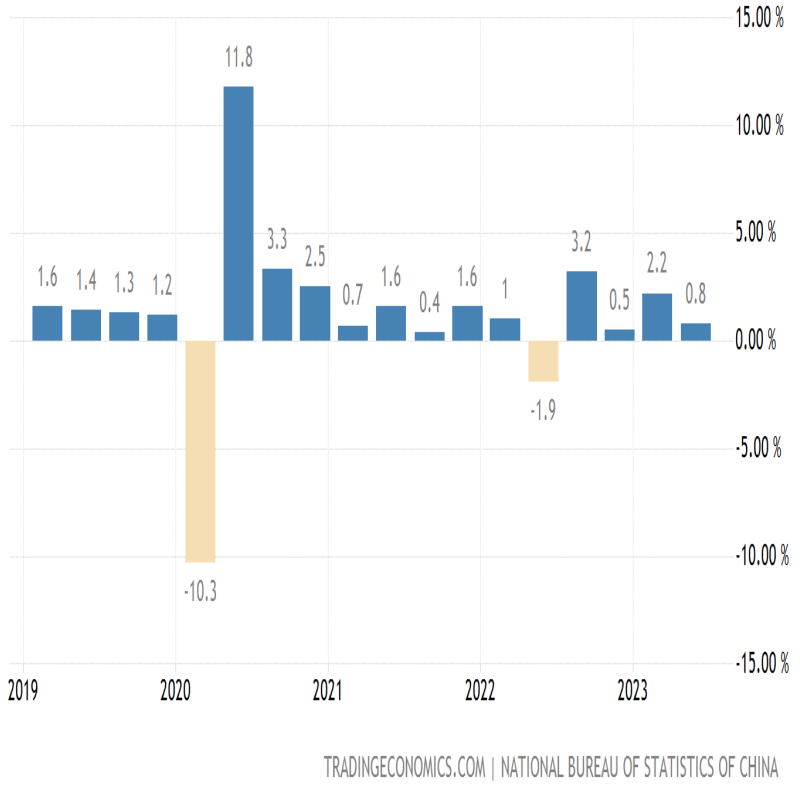
（6月から毎日、中国国家統計局のホームページに習近平国家主席の写真が掲載されている。新たな習近平個人崇拝のプロパガンダがスタートしたと思われる）

1. 中国の4～6月期GDPは景気の腰の弱さを反映

①ゼロコロナ政策停止で前年比は
+6. 3%に加速



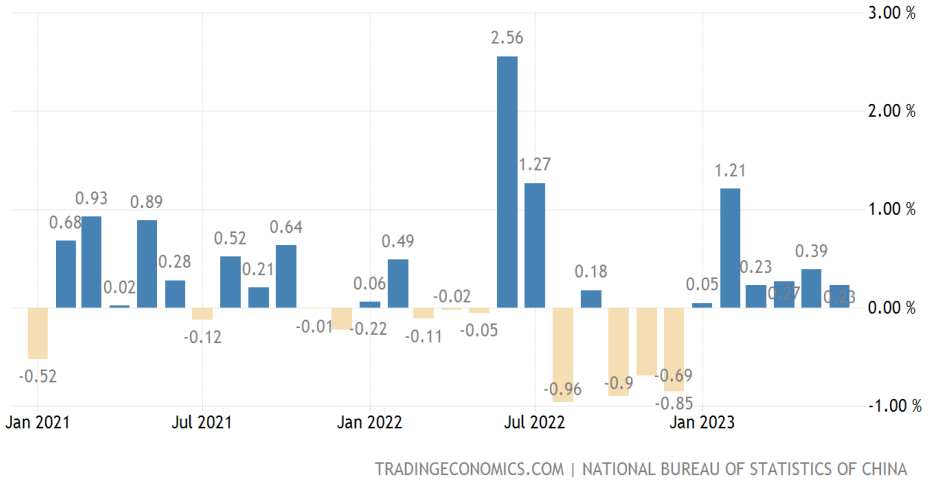
②前期比は+2. 2%から+0. 8%に減速

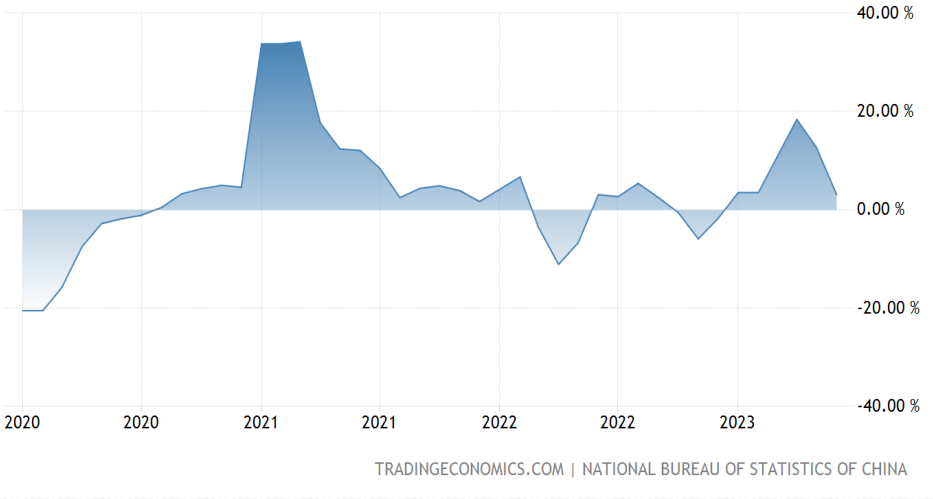


2. 中国の消費は一時的回復から再び減速へ

①6月の小売売上高の前年比(右下図)は
+3.1%と4ヶ月連続の増加だが、伸びは減速
6月の前月比(右上図)は+0.23%。
②商品別の前年比は以下の通り

	4月		5月		6月
通信機材	+14.6%	→	+27.4%	→	+6.6%
自動車	+38.0%	→	+24.2%	→▲1.1%	
建設資材	▲11.2%	→▲14.6%		→▲6.8%	
家具	+3.4%	→	+5.0%	→	+1.2%
家庭電器	+4.7%	→	+0.1%	→	+4.5%
宝飾品	+44.7%	→	+24.4%	→	+7.8%
化粧品	+24.3%	→	+11.7%	→	+4.8%
石油製品	+13.5%	→	+4.1%	→▲2.2%	
服飾類	+32.4%	→	+17.6%	→	+6.9%
事務用品	▲4.9%	→	▲1.2%	→▲9.9%	
医薬品	+3.7%	→	+7.1%	→	+6.6%
日用品	+10.1%	→	+9.4%	→▲2.2%	
合計	+18.4%	→	+12.7%	→	+3.1%



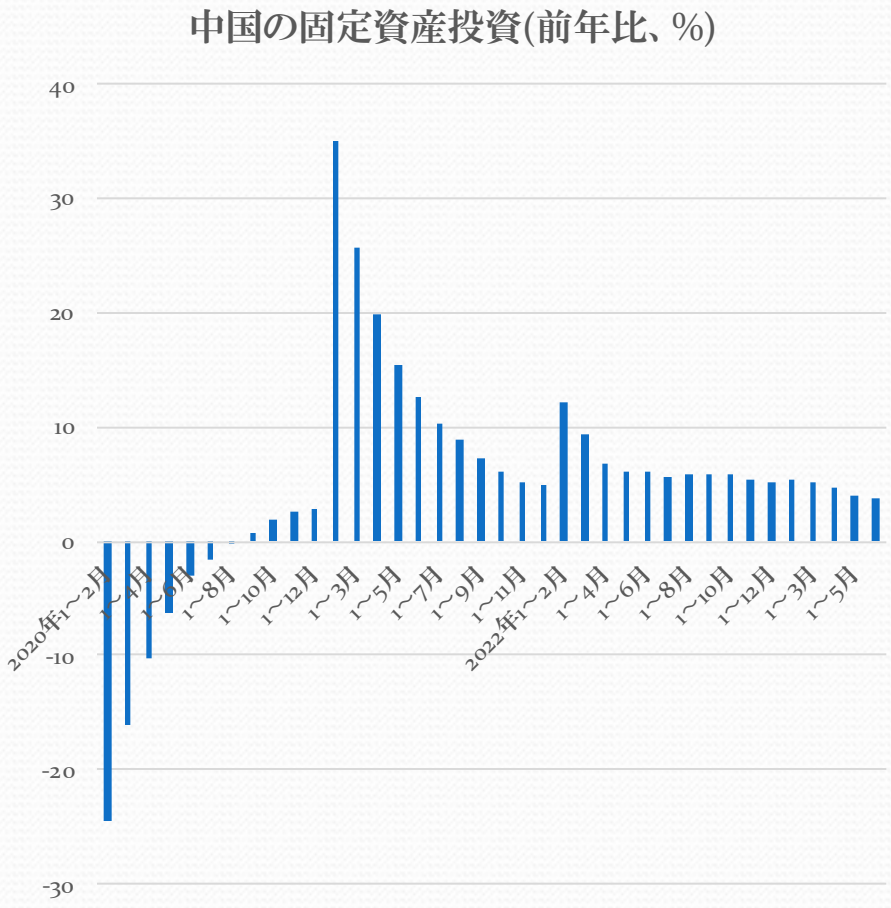


3. 中国の固定資産投資は公共投資主導続く

①1～6月累計の固定資産投資は前年比+3.8%(右図)。

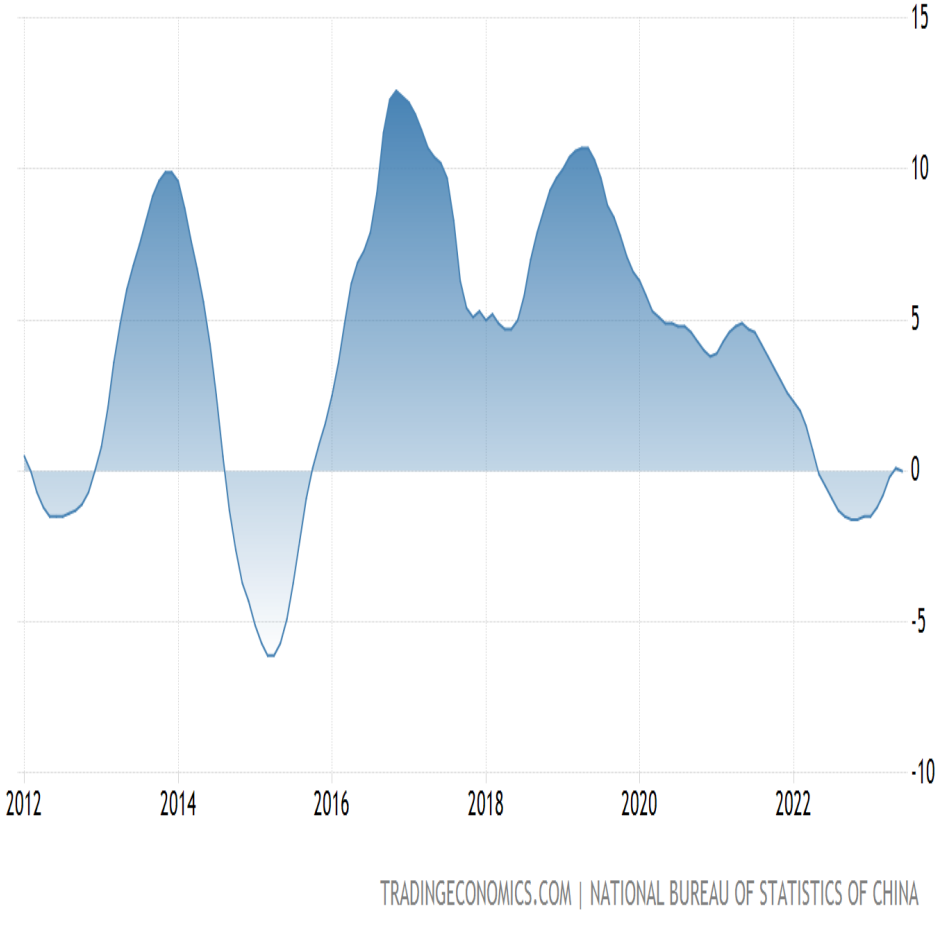
②民間投資は▲0.2%、公共投資の伸びは+8.1%。

③鉱業は+0.8%。製造業+6.0%、うち食品製造+1.4%、紡績業▲2.0%、化学+13.9%、医薬+1.7%、非鉄金属+14.2%、金属製品0.0%、自動車製造+20.0%、鉄道・船舶・航空+2.8%、電気機械+38.9%、コンピュータ・通信+9.4%、電力・ガス・水道+27.0%、鉄道運輸は+20.5%、道路運輸は+3.1%、水利環境公共施設+3.0%。



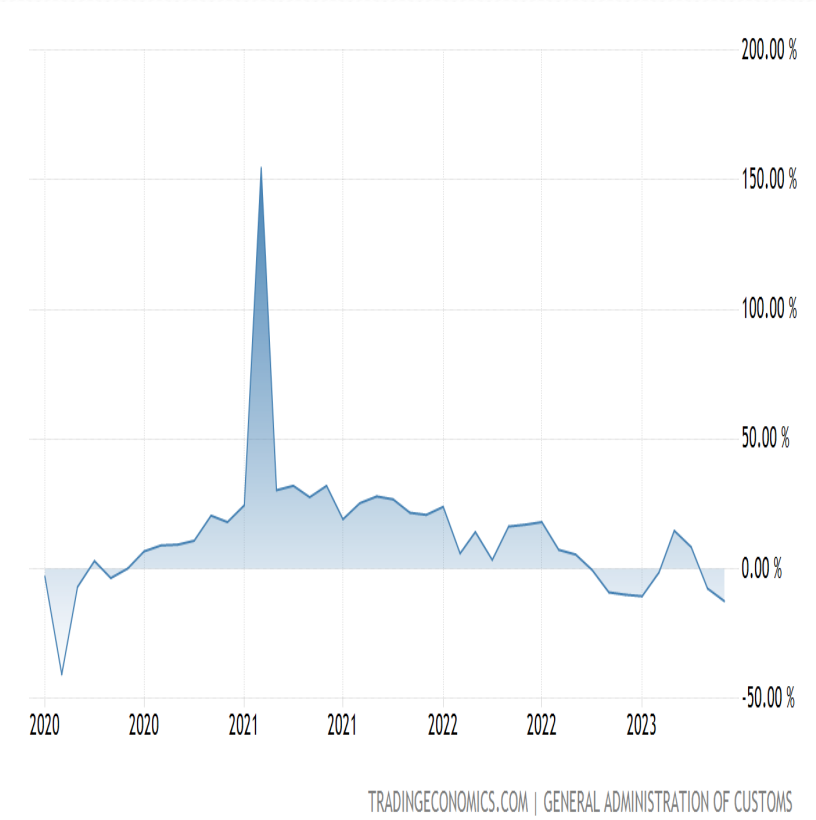
4. 中国の住宅価格は前月比で38都市が下落

①6月の70都市新築住宅価格の前年比は0.0%(右図）、前月比も0.0%。
②前月比で上昇した都市が31都市、下落したのは38都市、横ばいは1都市。
③都市別の住宅価格前年比は
北京+3.5%、大連▲4.2%
長春▲3.3%、上海+4.8%
南京+0.9%、武漢▲0.4%
広州▲0.8%、深圳▲2.4%
成都+7.2%、西安+0.2%

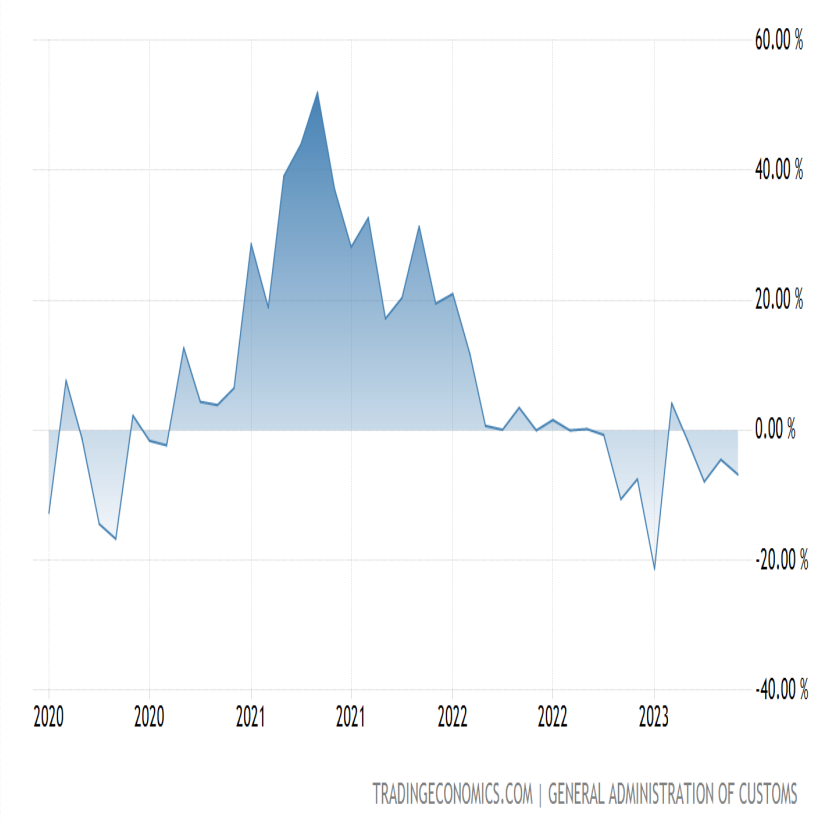


5. 中国の輸出、輸入共にマイナスと不振

①6月の輸出は前年比▲12.4%。米国向け▲23.7%、ＥＵ向け▲12.9%、ASEAN向け▲16.9%と軒並み減少しているが、ロシア向けは+90.9%と突出



②6月の輸入の伸びは前年比▲6.8%と4ヶ月連続の減少。

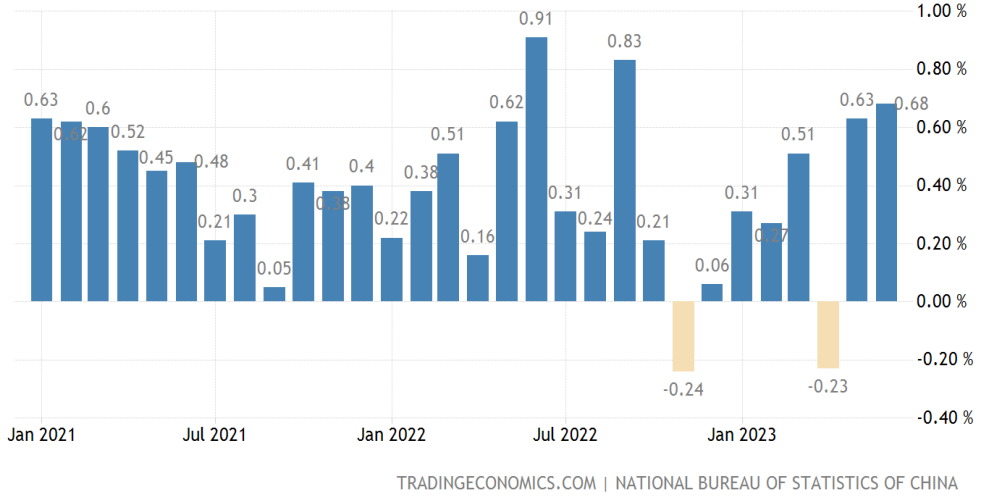


6. ゼロコロナ解除後の鉱工業生産の回復は緩やか

①6月の中国の鉱工業生産の前年比（右下図）は+4.4%の伸び。前月比（右上図）は+0.68%。

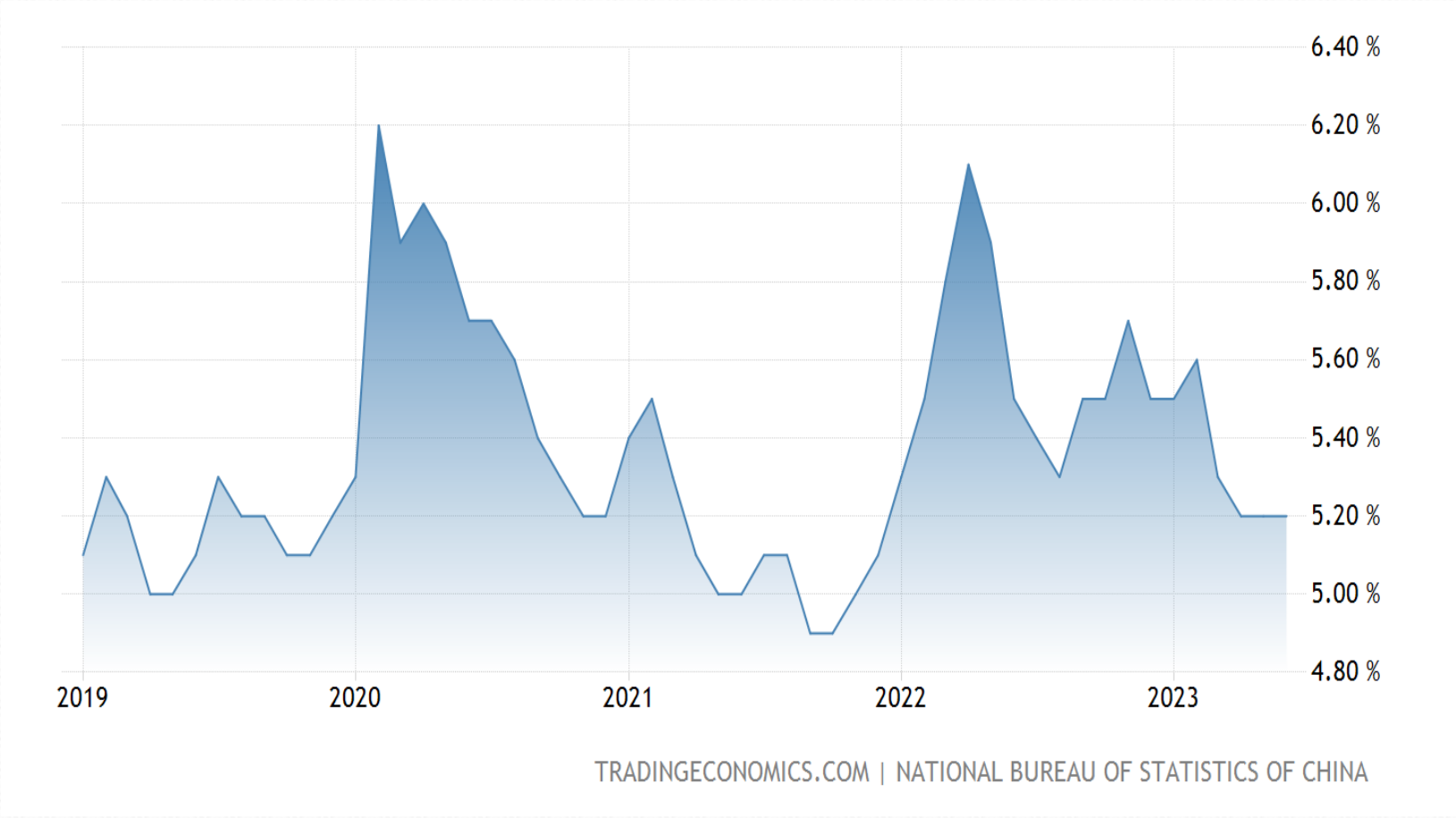
②製造業の前年比は+4.8%。電気・ガス・水道は+4.9%、鉱業は+1.5%。

③食品製造は前年比+3.1%、紡績▲0.4%、化学+9.9%、医薬製造▲4.4%、非金属鉱物製品▲2.1%、鉄鋼+7.8%、非鉄金属+9.1%、金属製品+2.4%、自動車+8.8%、鉄道・船舶・航空機+4.7%、電気機械+15.4%、コンピュータ・通信+1.2%。



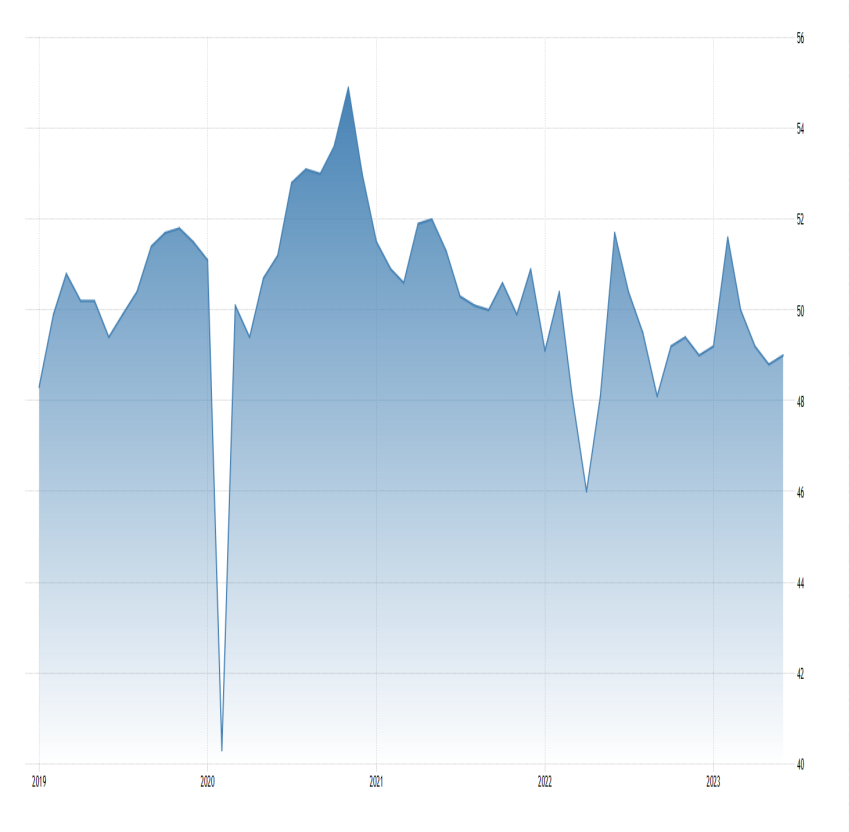
7. 中国の失業率は政府目標の5. 5%以下で安定

6月の全国都市失業率（農民工は統計に含まれず）は5. 2%と3ヶ月連続変わらず

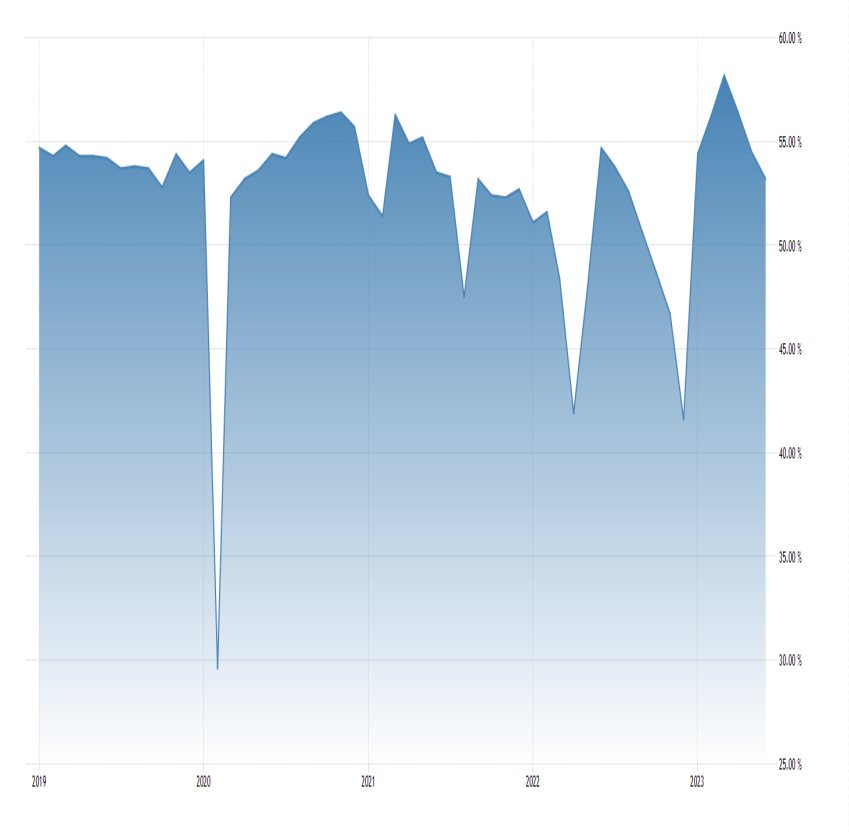


8. 中国製造業PMI指数は50を下回るなど不振

①6月製造業PMIは49.0と前月より+0.2ポイント上昇するも3ヶ月連続で50割れ

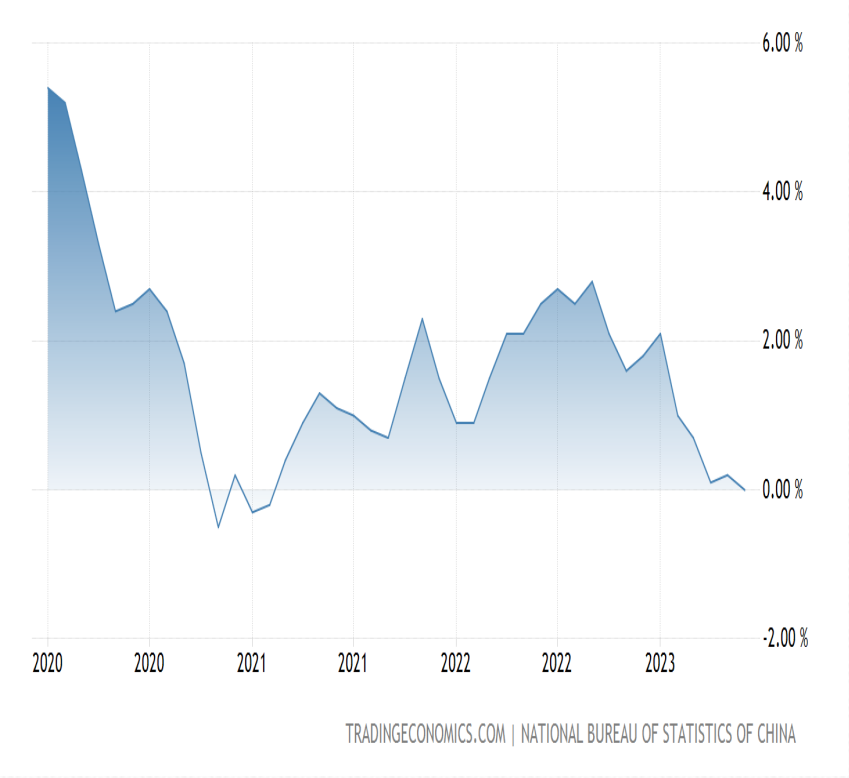


②6月非製造業PMIは53.2と前月より▲1.3ポイントの低下。

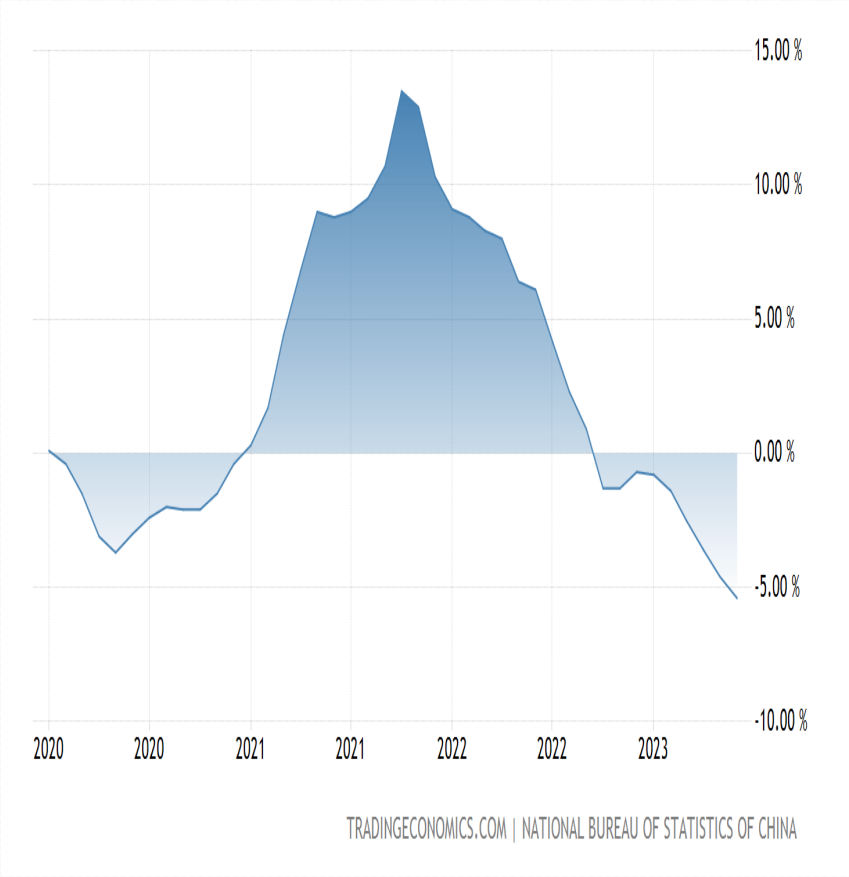


9. 中国の物価は弱くデフレ突入の兆し

①6月の消費者物価の前年比（左図）は0. 0%と前月より▲0. 2ポイント低下。前月比は▲0. 2%の下落。



②6月の生産者物価の前年比(右図)は▲5.4%と前月より▲0.8ポイント伸びが低下。前月比は▲0.8%。



Ⅳ 日本経済

1. 日銀短観の製造業DIは全般に持ち直しの兆し

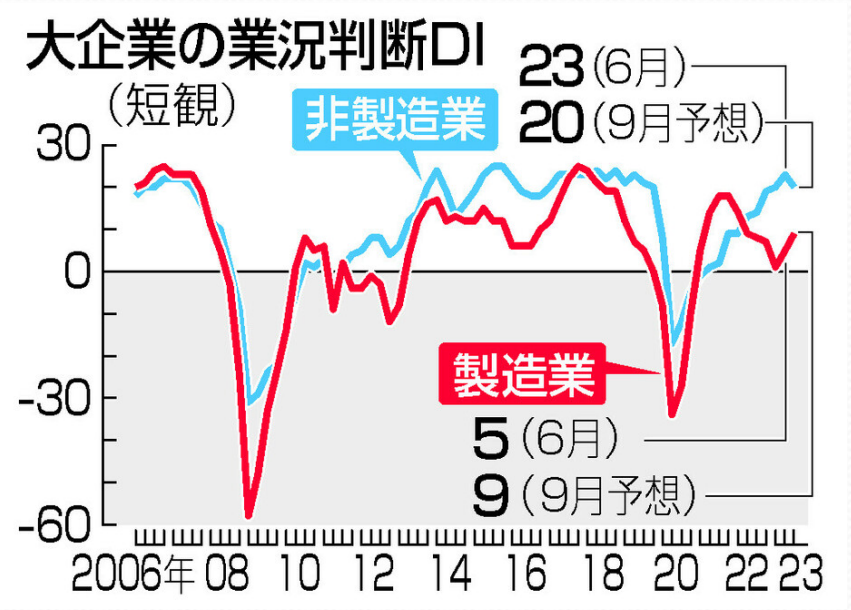
①日銀短観(6月調査)によれば大企業製造業の業況判断DI(「良い」-「悪い」、%ポイント)は前回3月調査より+4ポイント改善して+5。先行き9月予想は+9と+4ポイントの改善を見込んでいる。大企業非製造業は+3ポイント上昇して+23。先行きは▲3ポイント低下の+20を予想。

②中堅企業DIは製造業0(3月比+5)、非製造業+17(+3)、中小企業は製造業▲5(+1)、非製造業+11(+3)。先行き(3月比)は中堅製造業が+2、中堅非製造業が▲5、中小製造業が+4、中小非製造業が▲4と製造業の改善、非製造業の悪化を予想。

③経常利益の23年度計画は前年度比で大企業は製造業▲7.0%、非製造業▲5.3%、全産業▲6.2%。中堅企業は製造業▲8.4%、非製造業▲5.0%、全産業▲6.2%。中小企業は製造業▲2.2%、非製造業▲3.5%、全産業▲3.2%。全規模合計で製造業▲6.8%、非製造業▲4.9%、全産業▲5.8%を予想。

④生産・営業用設備判断(「過剰」-「不足」・%ポイント)は大企業製造業+2、大企業非製造業▲3。設備投資計画は23年度で大企業製造業+19.3%、大企業非製造業+10.1%。大企業全産業+13.4。

⑤雇用人員判断(「過剰」-「不足」・%ポイント)は3月、6月、9月予想で大企製造業は▲14→▲13→▲15、大企業非製造業▲33→▲34→▲34と人員不足が続く予想。



2. 1～3月期のGDPは内需増加で年率2.7%の伸び

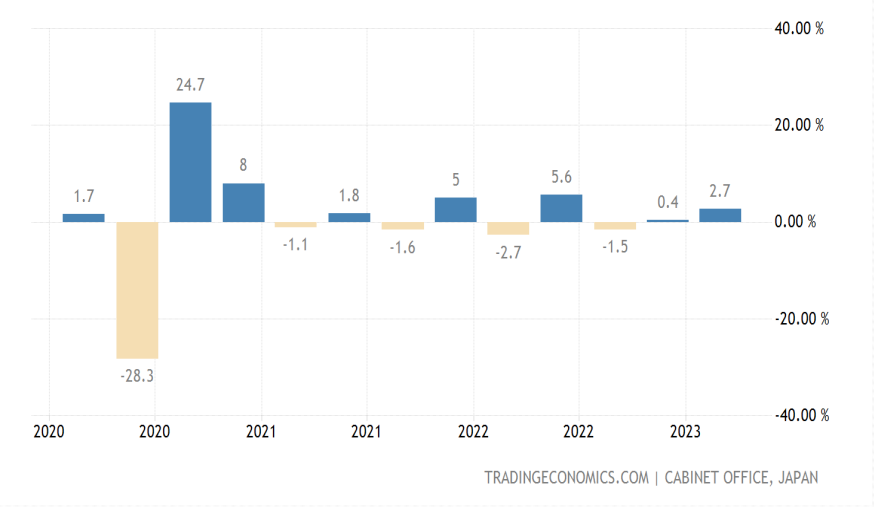
①1～3月期の実質GDP(2次速報値)は前期比+0.7%、前期比年率+2.7%(右上図)となった。内需の寄与度は+1.0%、外需▲0.3%。実質GDPの前年同期比(右下図)は+1.9%と前期より+1.5ポイント伸びが高まる。

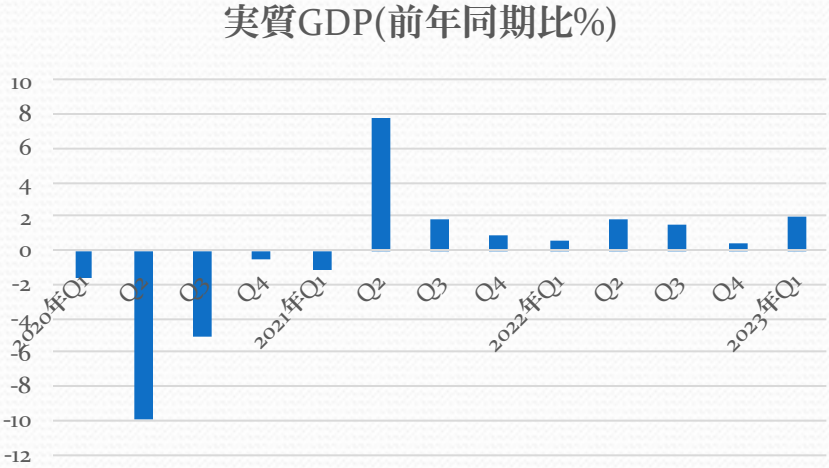
②名目GDPは前期比+2.0%、前期比年率+8.3%、前年比は+3.9%。GDPデフレータは前期比+1.3%、前年比は+2.0%。

③需要項目別で実質民間最終消費支出は前期比+0.5%（年率+2.1%)、寄与度は+0.3%。民間企業設備は前期比+1.4%(年率+5.6%)、寄与度は+0.2%。民間住宅は前期比▲0.1%(年率▲0.3%)、寄与度は▲0.0%。民間在庫変動の寄与度+0.4%。

④政府最終消費は前期比+0.1%(年率+0.5%)、公的固定資本形成は前期比+1.5%（年率+6.3%)で、政府支出合計の寄与度は+0.1%。

⑤輸出は前期比▲4.2%(年率▲15.9%)、寄与度は▲0.9%、輸入は前期比▲2.3%(年率▲8.9%)、寄与度は+0.6%。





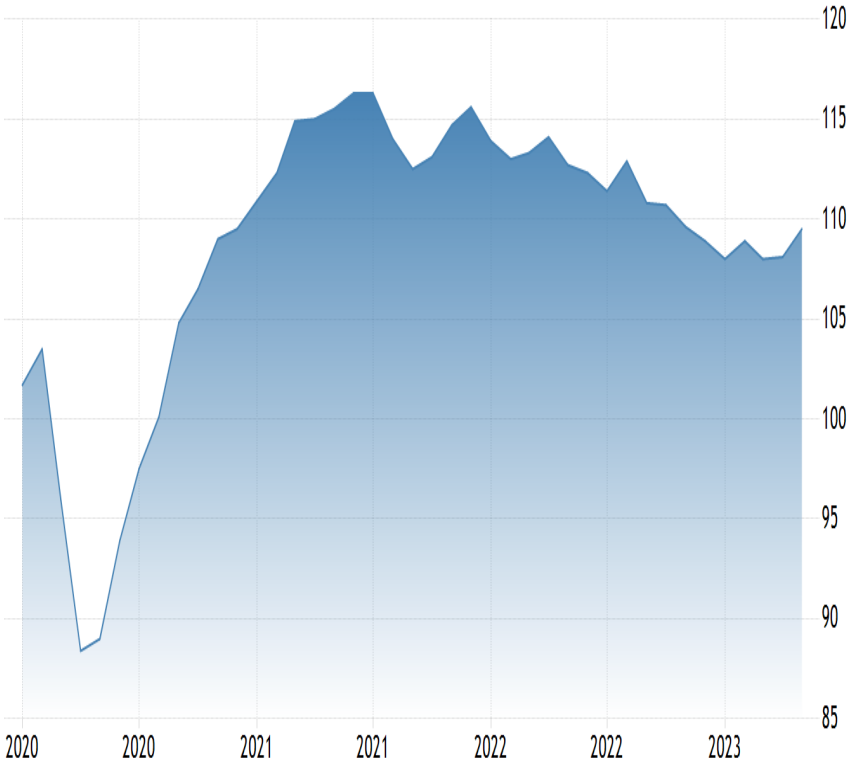
3. 景気動向指数(先行)は底入れの兆し

①5月の先行指数(右図)は109.5で、前月比+1.4ポイントで2ヶ月連続の上昇。

②一致指数は113.8で前月比▲0.4ポイントで2ヶ月ぶりの下降。

③遅行指数は106.1で前月比+0.6ポイントと3ヶ月連続の上昇。

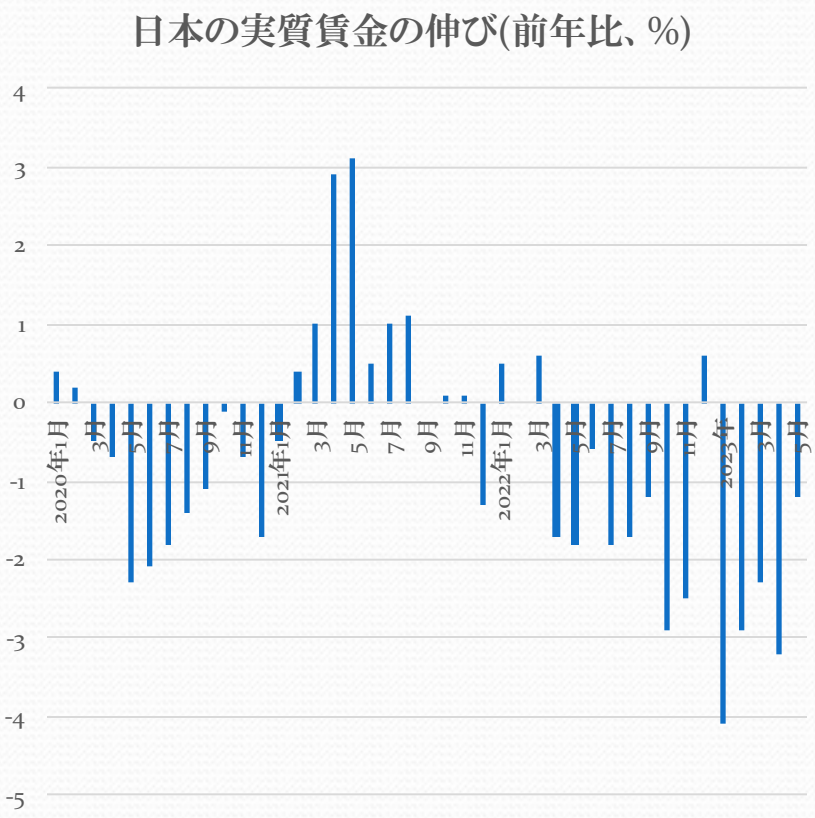
④内閣府の基調判断(一致指数)は前月までの「足踏みを示している」から「改善を示している」に上昇修正。

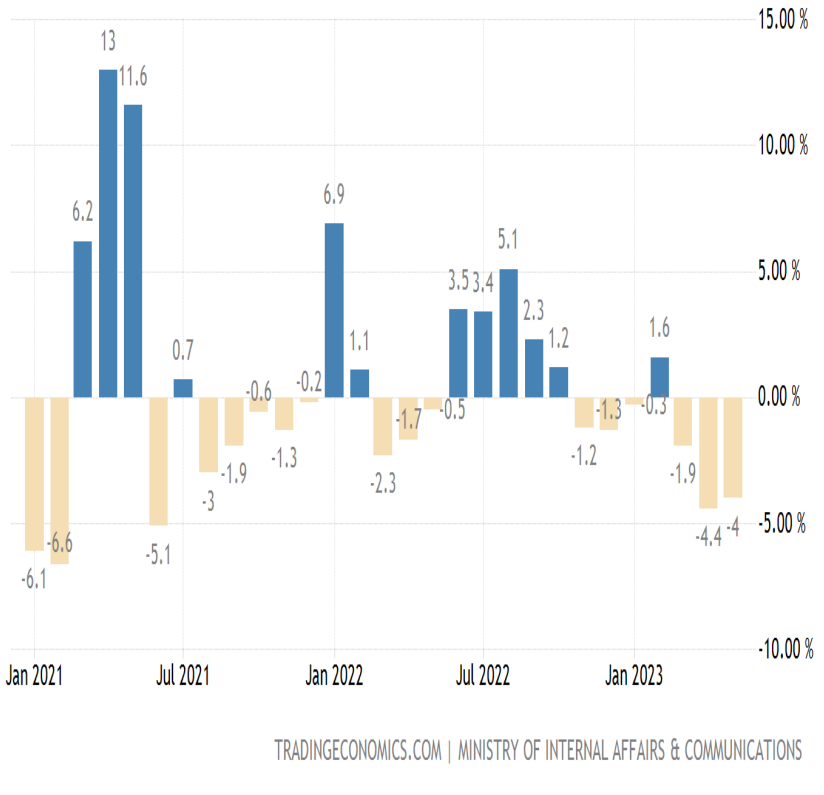


4. インフレ加速で実質賃金、消費共にマイナス

(1)5月の現金給与総額の前年比+2.5%、所定内給与は+1.8%、所定外給与+0.4%、特別給与+22.2%。実質賃金の伸び(下図)▲1.2%。

(2)5月の家計消費は前年比で名目▲0.4%、実質は▲4.0%(下図)。費目別実質伸び率は交通・通信▲11.4%、家具・家事用品▲8.9%、食料▲2.7%。教育+9.9%、光熱・水道+4.3%、教養・娯楽+3.7%。





5. 機械受注(船舶・電力除く民需)は足踏みが続く

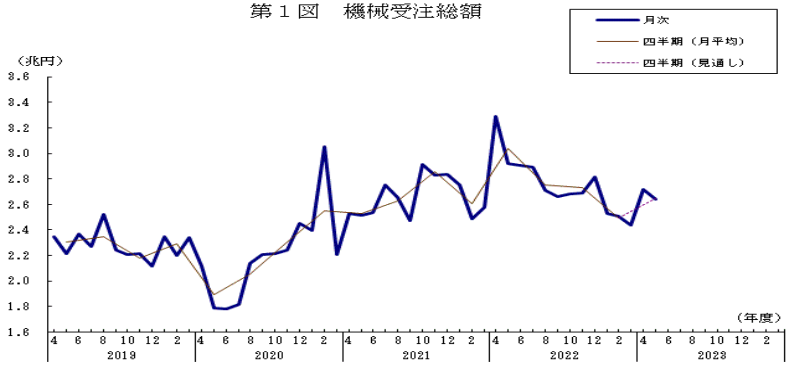
①民間設備投資の先行指標である5月の機械受注「船舶・電力を除く民需」(右下図)は前月比は▲7.6%の減少、前年比は▲8.7%の減少。

②製造業受注は前月比+3.2%、前年比は▲7.0%。前月比で17業種中、造船業、石油製品・石炭製品など7業種が増加。繊維工業、非鉄金属など10業種が減少

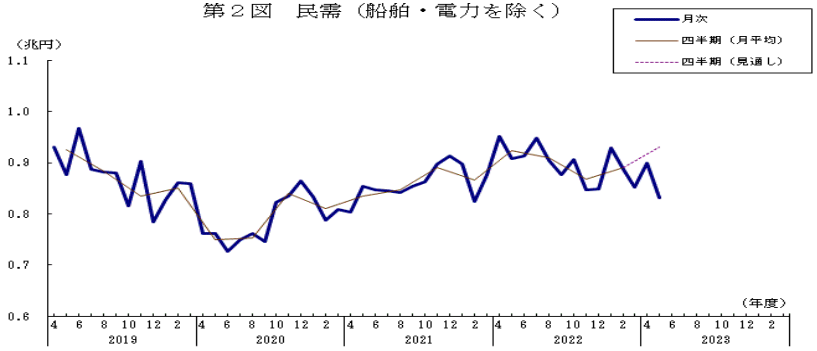
③非製造業受注(船舶・電力を除く)は前月比▲19.4%、前年比▲10.5%。前月比で12業種中、増加したのは電力業、不動産業など3業種で、金融業・保険業、リース業など9業種が減少。

④内閣府の基調判断は「足踏みがみられる」に据え置き。

第１図　機械受注総額



第２図　民需（船舶・電力を除く）

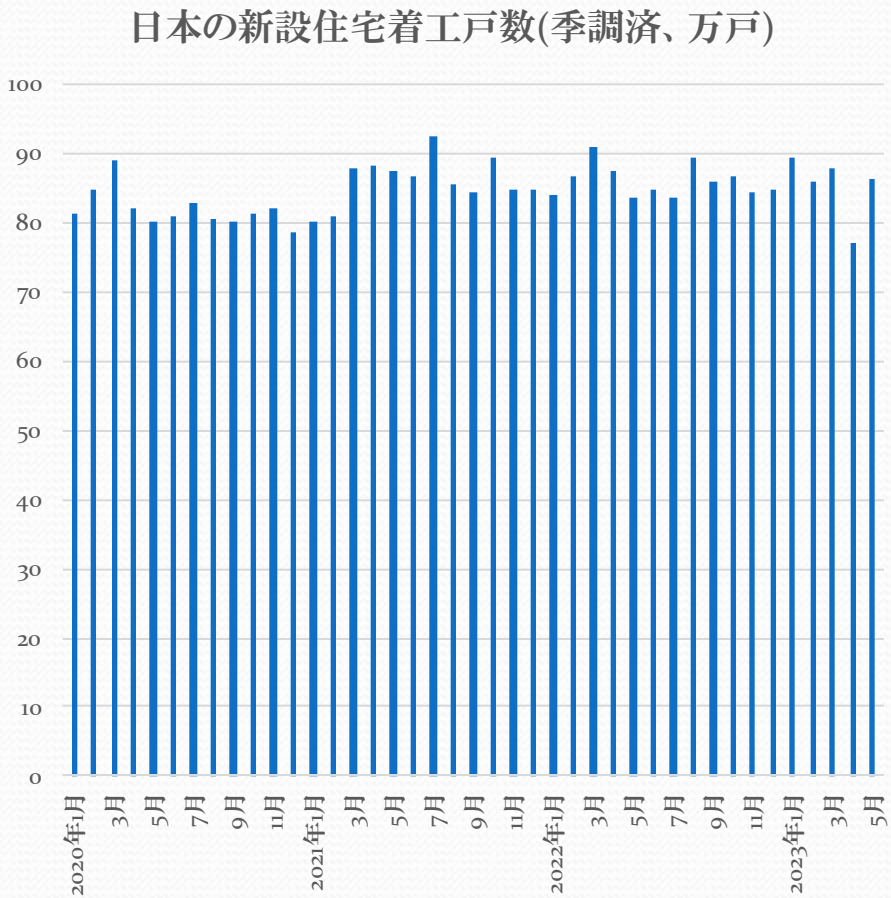


（備考）
１．四半期（月平均）は季節調整済みの月平均値を期央月の位置に表示(例えば７～９月の月平均値は８月の位置に表示）。
２．「2023年４～６月（見通し）」の計数は、「見通し調査（2023年３月末時点）」の季節調整値を３で割った数値。

6. 住宅着工戸数(季調済)は持ち直す

①5月の住宅着工戸数は69,561戸で前年比は+3.5%と4ヶ月ぶりの増加。季調済年率では86.2万戸(右図)、前月比は+11.8%の増加。

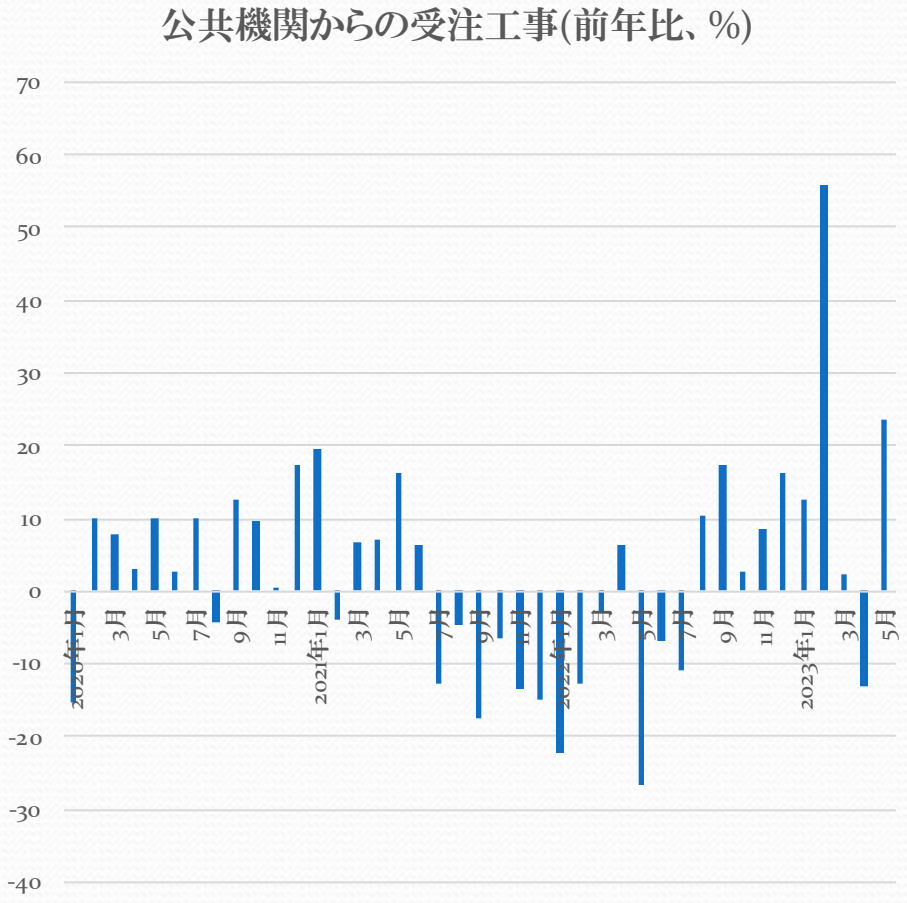
②持家は18,853戸、前年比は▲11.5%と18ヶ月連続の減少。貸家は28,695戸、前年比は+10.5%と再び増加。分譲住宅は21,289戸、前年比は+9.1%で4ヶ月ぶりの増加。分譲マンションは9,700戸、前年比は+28.2%で再びの増加。分譲一戸建て住宅は11,615戸、前年比は▲2.5%で7ヶ月連続の減少。



7. 公共工事受注は好調を維持

①5月の公共工事受注は前年比+23.7%。（注：推計方法の変更により、データは21年3月までと21年4月以降とでは連続性がない）

②工事分類別では土木工事は+35.9%、建築工事・建築設備工事+12.5%、機械装置等工事▲6.6%。



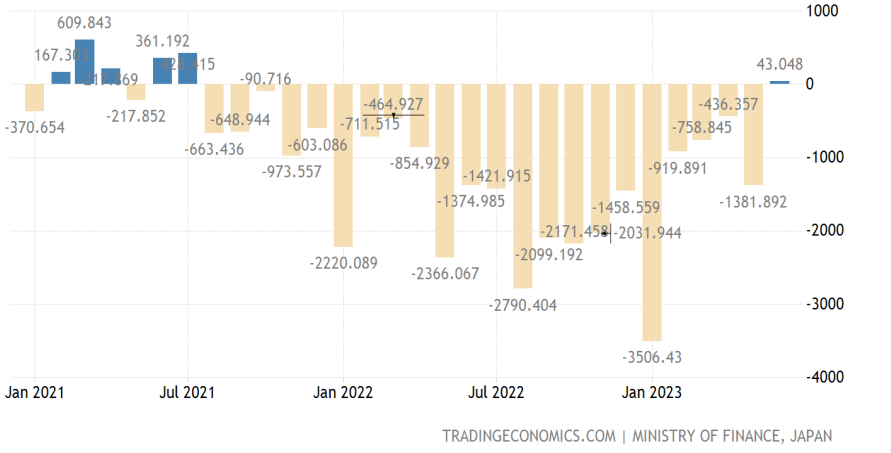
8. 貿易収支は輸入減少で23ヶ月ぶりに黒字

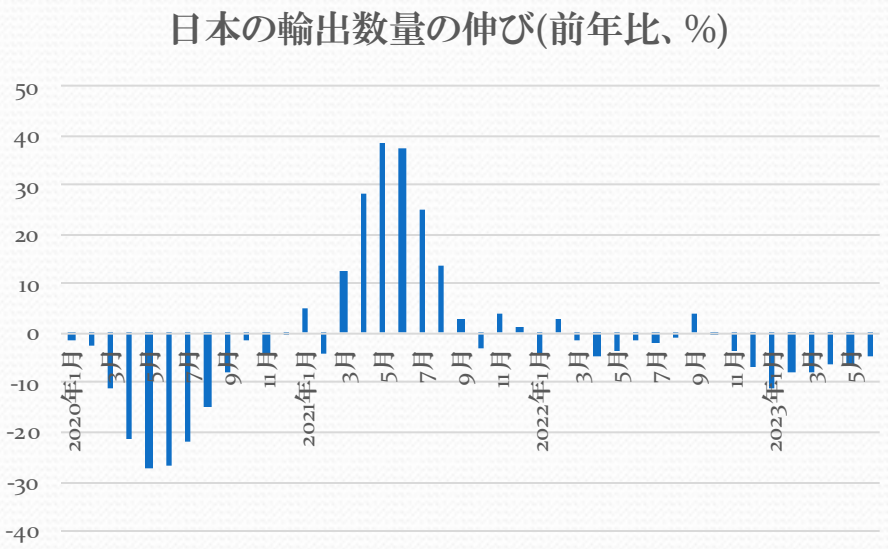
①6月の貿易収支は前年比+1兆4,180億円改善して+430億円(右上図)の黒字に転換したが、2021年7月以来の黒字。輸出は前年比+1.5%、金額は8兆7,441億円。数量(右下図)前年比は▲4.8%、価格前年比+6.7%。輸入は前年比▲12.9%、金額は8兆7,010億円。数量の前年比▲6.1%、価格の前年比▲7.3%。

②地域別輸出でアジア向けは▲8.4%(うち中国▲11.0%、香港+9.3%、台湾▲21.3%、韓国▲9.2%、シンガポール▲3.2%、タイ▲7.6%、インドネシア+3.2%、インド+18.4%)、米国+11.7%、西欧+15.5%、中東+30.0%、ロシア+29.3%。

④商品別輸出は自動車+49.7%、建設用・鉱山用機械+45.8%、船舶+32.8%、半導体等製造装置▲17.7%、鉄鋼▲16.8%、プラスチック▲12.6%、半導体等電子部品▲10.7%。

⑤商品別輸入は鉱物性燃料▲33.2%(原油及び粗油▲36.2%、LNG▲33.2%、石炭▲37.5%)、医薬品▲16.8%、非鉄金属▲22.9%、半導体等電子部品▲22.8%、電話機▲30.0%。





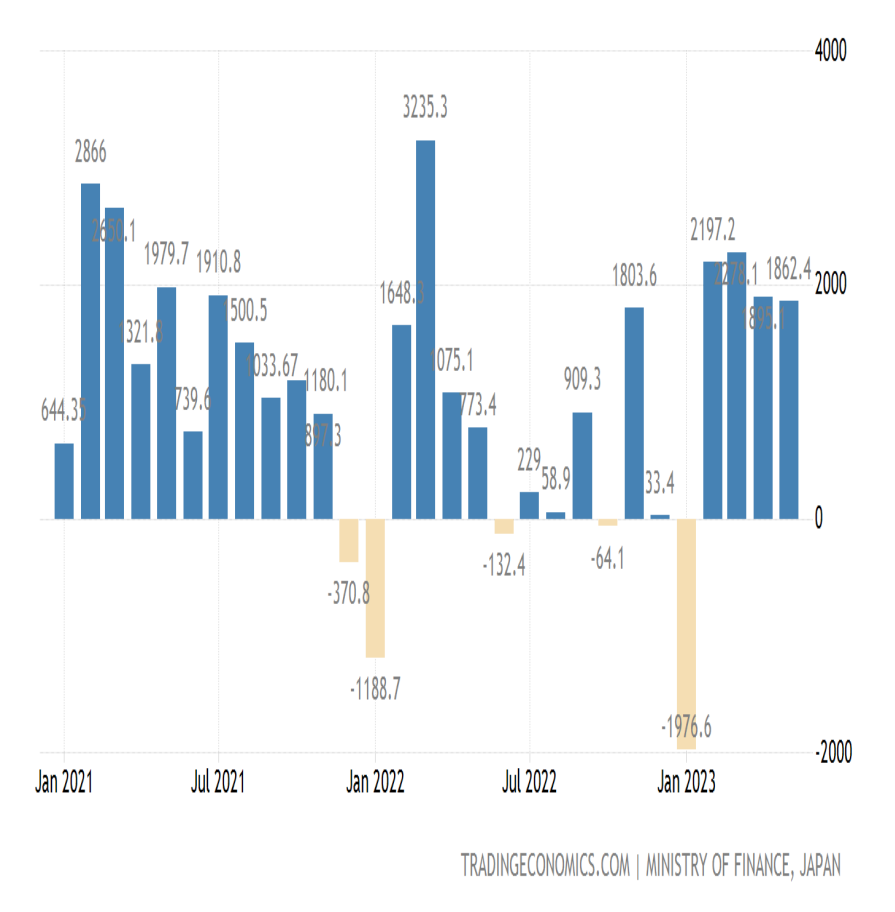
9. 貿易赤字減と所得収支黒字増で経常黒字が拡大

①5月の経常収支(右図)は前年比+1兆891億円黒字幅が拡大して、+1兆8,624億円の黒字。

②貿易収支は前年比+7,514億円赤字幅が縮小して▲1兆1,867億円の赤字。輸出は前年比▲2.8%の7兆2,412億円、輸入は前年比▲10.2%の8兆4,279億円。

③サービス収支は▲590億円赤字幅が拡大して▲2,409億円の赤字。

④第一次所得収支は直接投資収益の黒字幅拡大により、+5,267億円黒字幅が拡大して+3兆6,319億円の黒字。第二次所得収支は▲1299億円赤字幅が拡大して▲3,418億円の赤字。



10. 日本の雇用状況は頭打ち横ばいが続く

①5月の就業者数は原系列で6,745万人、前年比+15万人。季調済(右上図)は6,736万人で前月比▲8万人の減少。原系列で雇用者数は6,063万人で前年比+27万人の増加。正規は3,655万人で前年比+29万人、非正規は2,074万人で前年比▲3万人。自営業主・家族従業者は651万人で前年比▲9万人。

②産業別就業者の前年比では製造業+20万人、建設業＋14万人、宿泊業・飲食サービス業+13万人、情報通信業+13万人など増加。教育・学習支援業▲10万人、農業・林業▲14万人、医療福祉▲19万人などが減少。

③完全失業者数188万人で前年比▲3万人。完全失業率は2.6%で前月と同じ。

④有効求人倍率は1.31倍で前月より▲0.01ポイント低下(右下図)。

11. 鉱工業生産の先行きは未だ読みづらい

①5月の鉱工業生産指数(確報、基準年次が2015年から2020年に変更)は103.2で、前月比(右上図)は▲2.2%と4ヶ月ぶりの低下、前年比は+4.2%と7ヶ月ぶりの上昇（右下図)。

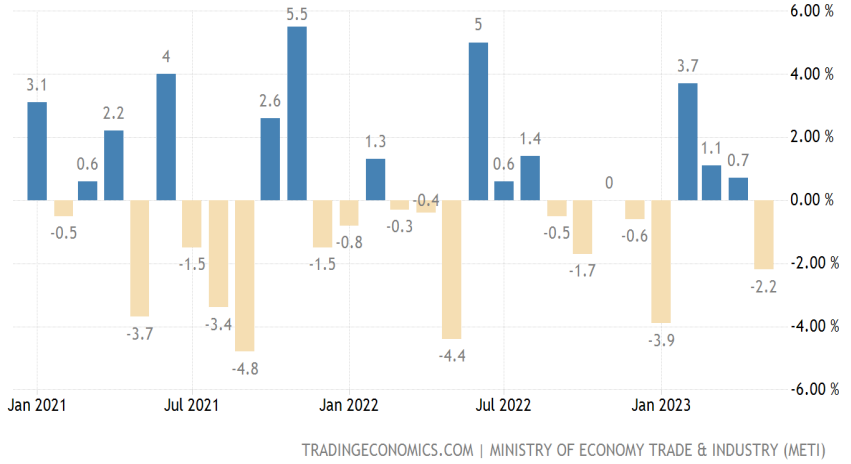
②業種別前月比は自動車工業▲8.9%、電気・情報通信機械工業▲4.4%、化学工業(除く無機・有機化学工業)▲4.1%などが低下。鉄鋼・非鉄金属工業+1.0%、食料品・たばこ工業+2.1%、生産用機械工業+3.6%などが上昇。

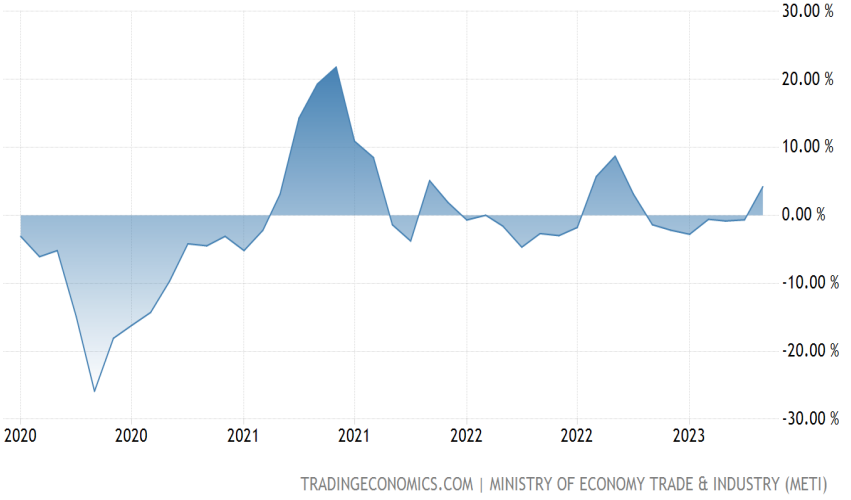
③業種別前年比で電子部品・ディバイス工業▲12.1%、無機・有機化学工業▲9.6%、パルプ・紙・紙加工品工業▲6.7%、石油・石炭製品工業▲6.5%などが低下。自動車工業+44.9%、輸送機械工業(除く自動車工業）+13.9%、電気・情報通信機械工業+13.4%などが上昇。

④6月の製造工業生産予測指数は前月比+5.6%の上昇、7月は▲0.6%の低下を予想。

⑤設備投資の先行指標である資本財(輸送機械を除く)出荷は前月比+2.6%、前年比+3.0%

⑥基調判断は「生産は緩やかな持ち直しの動き」に据え置き。





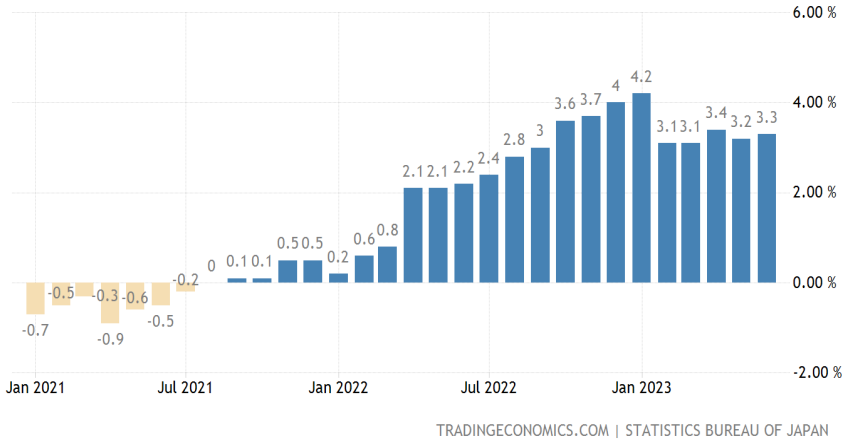
12. 消費者物価上昇は食料の伸びが主導

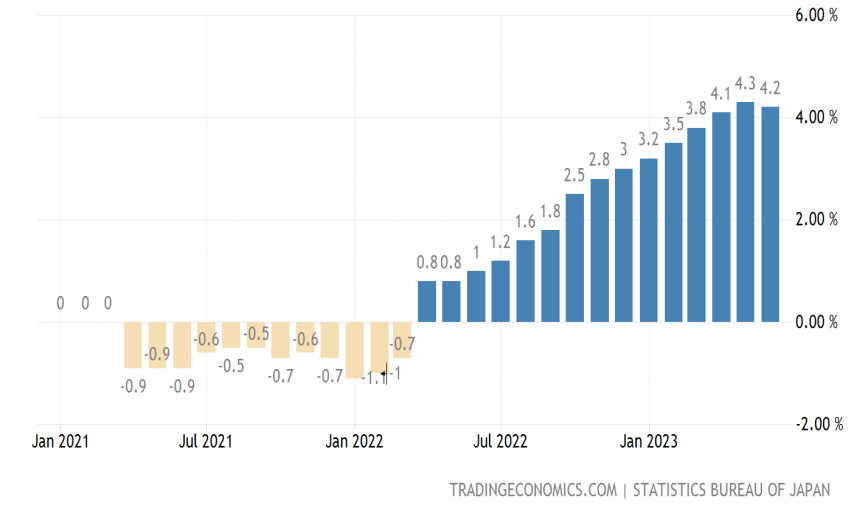
①6月のコア消費者物価（生鮮食品を除く総合）の前年比（右上図）は+3.3%と前月を+0.1ポイント上回る。前月比は+0.4%。

②生鮮食品及びエネルギーを除く総合（コアコア）の前年比（右下図）は+4.2%で前月より▲0.1ポイント伸びが下回る。前月比は+0.2%

③消費者物価総合の前年比は+3.3%と前月より+0.1ポイント伸びが上回る。前月比は+0.2%。エネルギーの前年比は政府の電気、ガス代負担軽減策で押し下げられて▲6.6%、寄与度は▲0.56%と前月との寄与度差は+0.13%。食料の前年比は+8.4%で寄与度は+2.23%。

④項目別前年比で上昇は火災・地震保険料+12.2%、鶏卵+35.7%、豚肉+9.4%、炭酸飲料+17.1%、外食+6.4%、宿泊料+5.5%、携帯電話機+19.3%。電気代▲17.1%。





Ⅴ マーケット動向

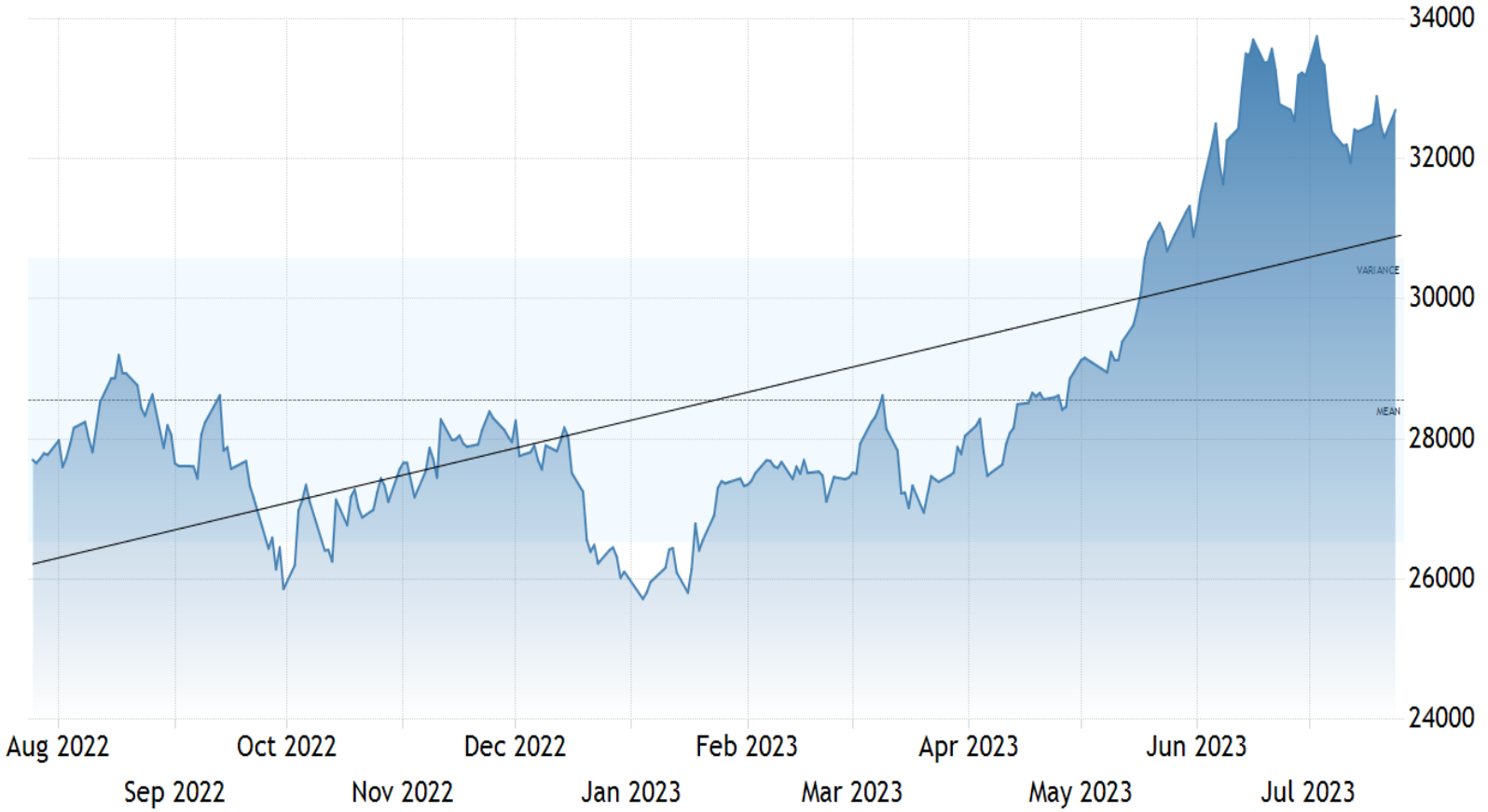
1. 日銀金融政策変更か否かで円がアップダウン

2. ユーロはECBの金融引き締め継続で堅調

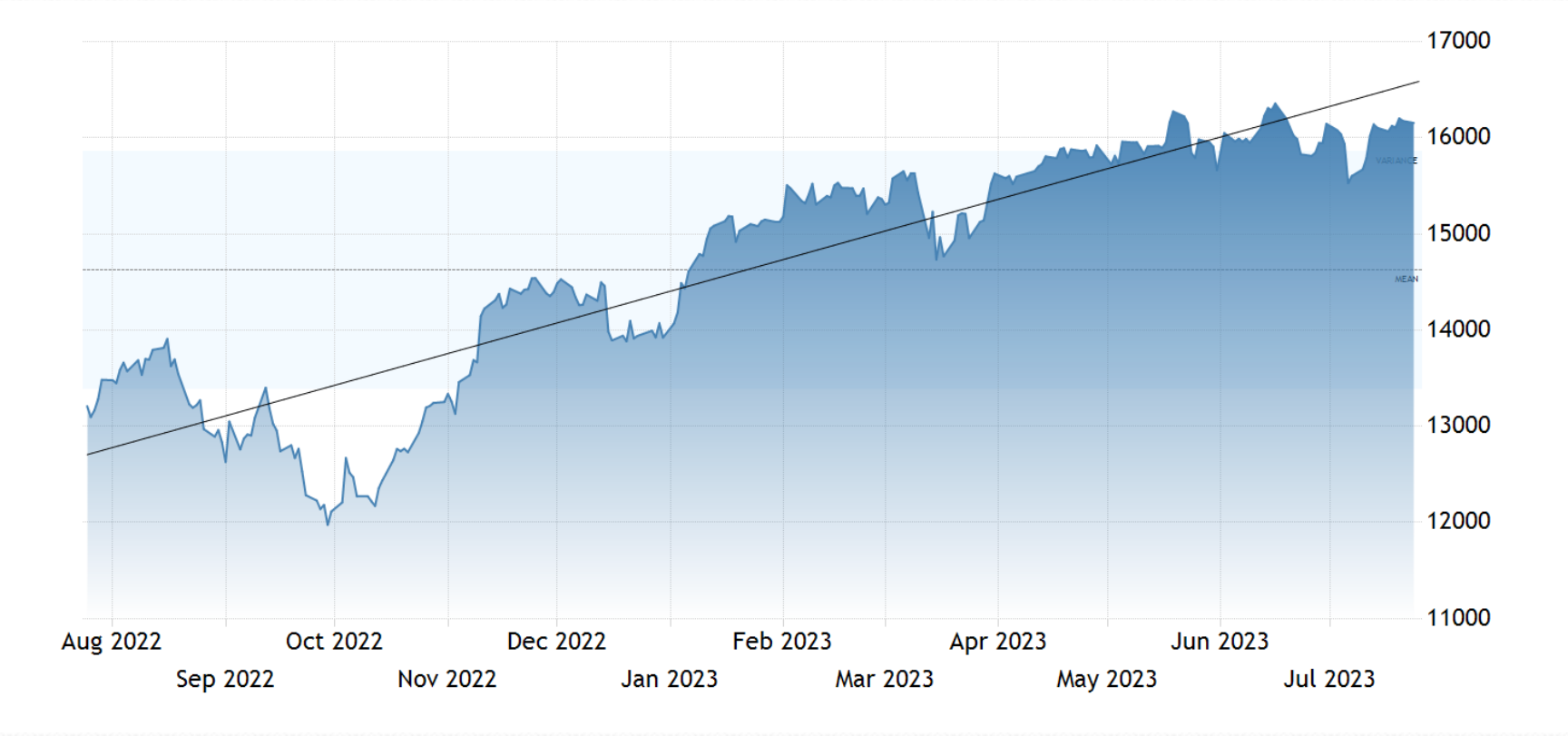
3. 人民元は鈍い景気回復で弱含み

4. NYダウはインフレ減速で再び上昇

5. 日経平均は金融政策を巡って神経質な動き

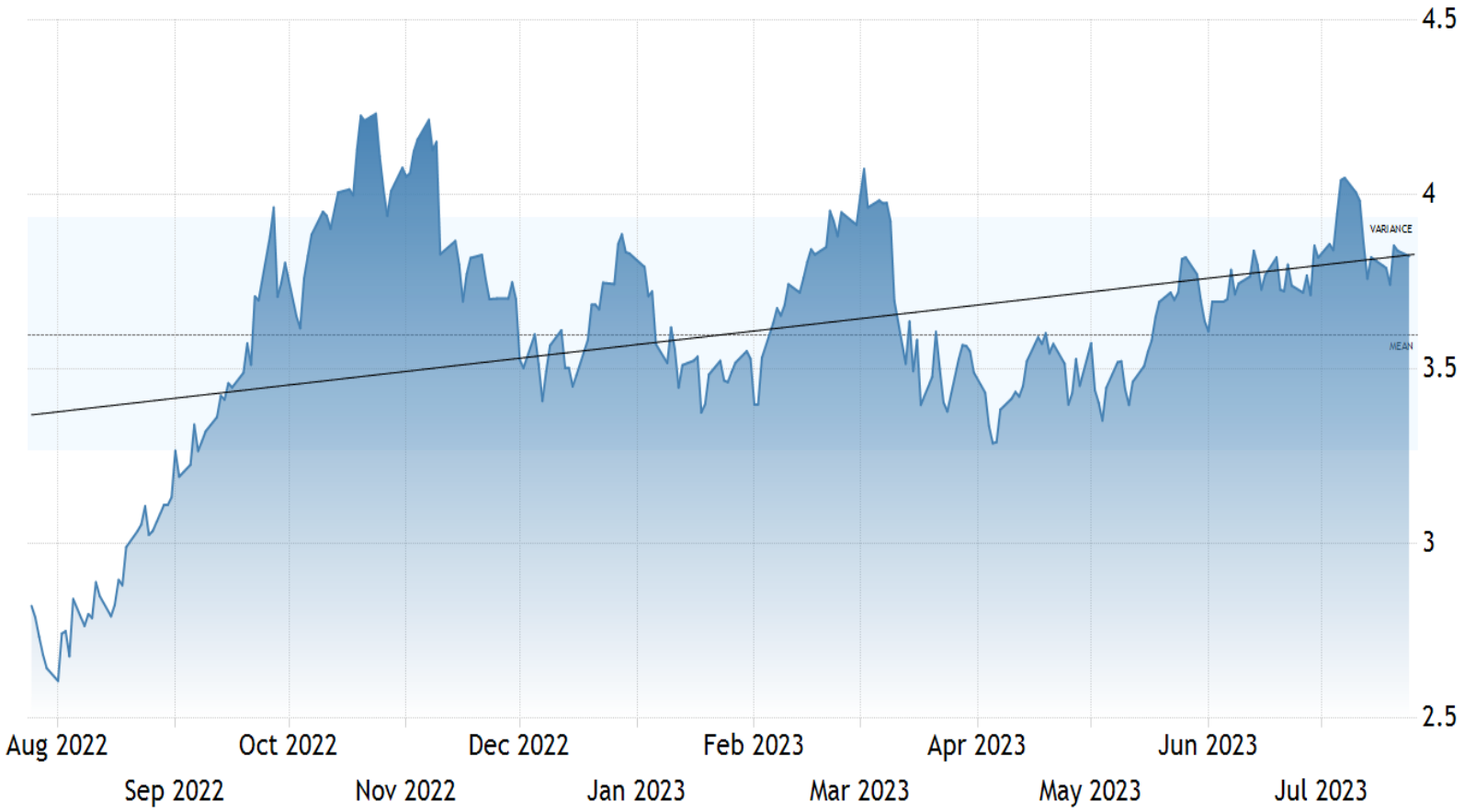


6. 独株価(DAX)は高値圏での推移



7. 上海株価は景気回復の弱さから下降

8. 米長期金利の先行きはインフレ次第



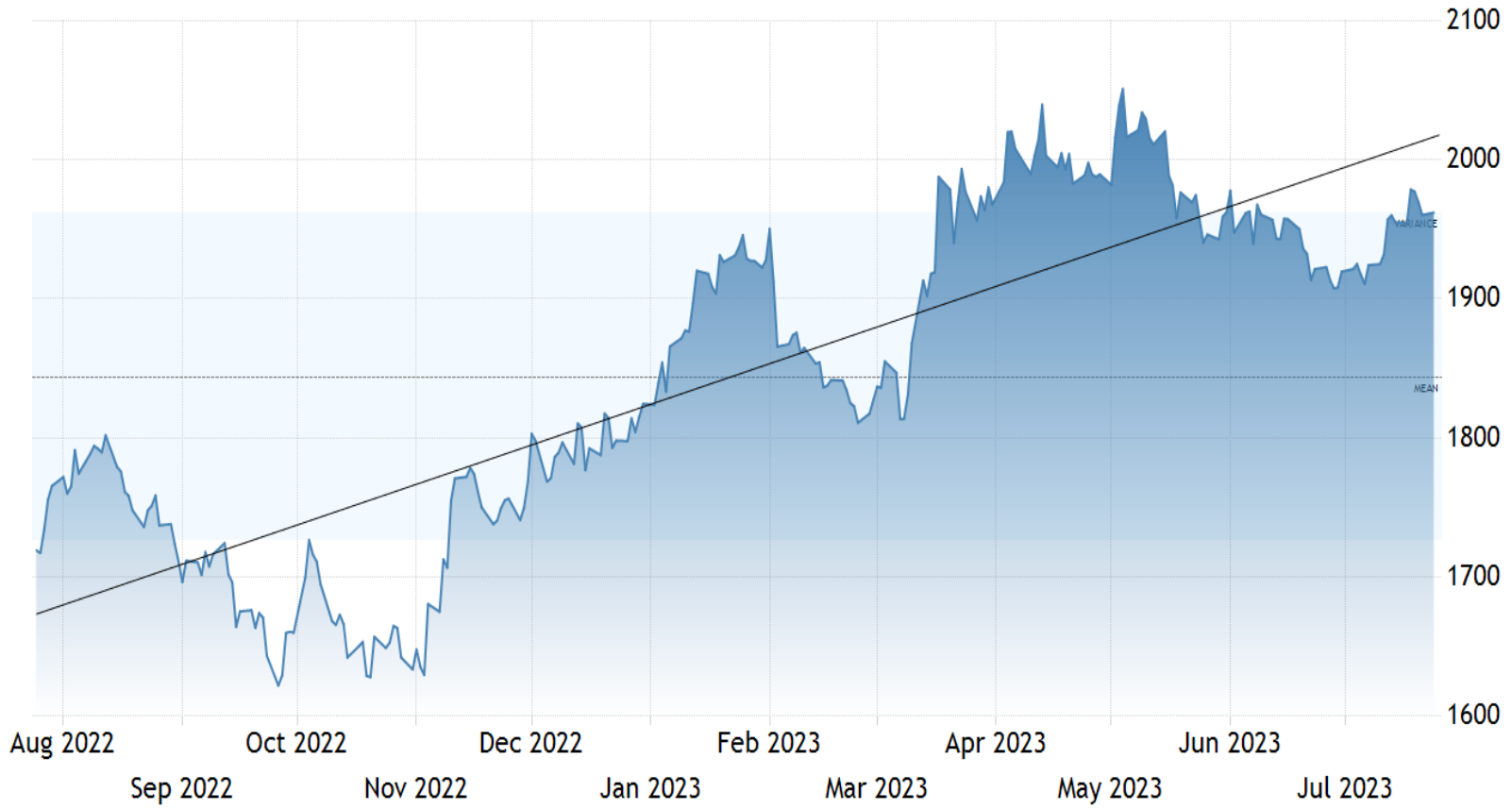
9. 日本の長期金利はYCC変更の思惑で不安定

10. 独長期金利は2. 5%近辺で横ばいの動き

11. 中国の長期金利はデフレ懸念で低下

12. 原油価格(WTI)は産油国減産で上昇

13. 金価格はインフレ等のリスクでやや戻す



これは長年、世界経済の真実を
追いかけてきた著者が到達した
日本の未来を照らす希望の書だ！
――丹羽宇一郎氏

講談社＋α新書

ディープな一次情報を知る男が
ヒト・モノ・カネの動きから読み解く

完